

平成29年度  
全国学力・学習状況調査  
恵庭市の調査結果（報告）



平成30年2月  
恵庭市教育委員会



	目 次
---	-----

<b>1</b>	調査の概要	1
<b>2</b>	「教科に関する調査」調査結果	4
	（1）小・中学校各教科平均正答率の状況	4
	（2）教科別調査結果の詳細	6
	① 小学校国語A（主として「知識」に関する問題）	6
	② 小学校国語B（主として「活用」に関する問題）	9
	③ 小学校算数A（主として「知識」に関する問題）	12
	④ 小学校算数B（主として「活用」に関する問題）	15
	⑤ 中学校国語A（主として「知識」に関する問題）	18
	⑥ 中学校国語B（主として「活用」に関する問題）	21
	⑦ 中学校数学A（主として「知識」に関する問題）	24
	⑧ 中学校数学B（主として「活用」に関する問題）	27
<b>3</b>	「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果	30
	（1）小学校児童質問紙調査結果の概要	30
	（2）中学校生徒質問紙調査結果の概要	32
	（3）児童・生徒質問紙の回答状況と学力のクロス集計（基準別集計）結果	34
	（4）児童・生徒質問紙及び学校質問紙調査の主な回答結果データ	36
<b>4</b>	総評	39

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

全国学力・学習状況調査は、以下①・②の取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として実施されています。

- ① 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### (2) 調査の対象

- ・ 小学校6年生、義務教育学校前期課程6年生、特別支援学校小学部6年生
  - ・ 中学校3年生、義務教育学校後期課程3年生、中等教育学校3年生、特別支援学校中学部3年生
- ※ いずれの学年においても、全ての児童・生徒が対象です。

### (3) 調査の方式

全国学力・学習状況調査の方式は「**悉皆（しっかい）調査**」です。

悉皆調査は「**全数調査**」などともいわれ、集まったデータ全てをもれなく分析する調査のことです。（反対に、集まったデータの一部を抜き出して分析する調査は「**標本調査**」などといわれます。）

### (4) 調査の内容

#### ① 教科に関する調査（テスト）

平成29年度は、国語、算数（小学6年生）又は数学（中学3年生）の2教科ごとに「A」と「B」の2種類のテストが行われました。

A（主として「知識」に関する問題）	B（主として「活用」に関する問題）
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・ 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など

## ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（アンケート）

児童・生徒一人ひとりを対象とした調査と、各小・中学校を対象とした調査の2種類が行われました。

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

### （５）調査実施日

平成29年4月18日（火）

### （６）調査を受けた児童・生徒数

単位 (人)	小学6年生				中学3年生			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
恵庭	585	585	585	585	612	611	611	612
全道	35,797	35,791	35,802	35,794	37,265	37,254	37,252	37,248
全国	999,683	999,498	999,723	999,451	982,511	982,619	982,811	982,786

※当日の参加人数。 ※※全道は公立学校分のみ。全国は公立・国立・私立学校の計。

### （７）調査の解釈にあたって留意いただきたいこと

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的に実施していますが、調査した教科は2教科のみであり、設問の内容も学習内容全てを網羅しているとは限りません。

したがって、調査の結果から分かるのは、児童・生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分や、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに十分ご注意ください。

### （８）調査結果の掲載方法

「教科に関する調査」（テスト）の結果については、次のような方法で表示しています。

#### ①教科ごとの平均正答率（％）

全道・全国平均正答率との比較として、「記号」や「文言」で表します。

全国・全道平均との比較（ポイント差）	記号	文言
+5.0 以上	△	上回る
+2.0～+4.9	◇	やや上回る
-1.9～+1.9	≡	同様
-4.9～-2.0	◆	やや下回る
-5.0 以下	▼	下回る

恵庭市における「教科に関する調査」の実際の平均正答率数値については、他市町村等との単純比較や序列化などに結びつき、調査の目的を損ないかねないとの考えから、公表していません。

同様の理由により、市内小・中学校ごとの結果数値についても公表していません。

## ②教科の具体的な領域や設問ごとの（平均）正答率（％）

①のような全道・全国平均との比較形式のほか、市の（平均）正答率についても「記号」や「文言」で表します。

市の（平均）正答率	記号	文言
80%以上	◎	相当できている
60%～79%	○	
50%～59%	●	
49%以下	・	課題がある

（※教科の領域ごとの結果では「平均正答率」、個々の設問の結果では「正答率」を表します。）

「教科に関する調査」（テスト）の結果と異なり、「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」（アンケート）の結果については、恵庭市の回答率をそのまま表示しています。

## （9）調査問題・質問内容および国・北海道の調査結果報告書について

調査問題とその正答例、解説資料及び質問紙調査の内容については、文部科学省の所管する国立教育政策研究所のウェブサイトの下記のアドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

・平成29年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料について  
⇒ <http://www.nier.go.jp/17chousa/17chousa.htm>

また、国（文部科学省・国立教育政策研究所）としての調査結果報告書についても、同様にダウンロードすることができます。

・調査結果報告書（国） ⇒ <http://www.nier.go.jp/17chousakekkahoukoku/index.html>

北海道教育委員会としての調査結果報告書については、下記アドレスから、PDF形式でダウンロードすることができます。

・調査結果報告書（道）  
⇒ [http://www.dokyoii.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/gakuryoku29/kanren\\_data.htm](http://www.dokyoii.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/gakuryoku29/kanren_data.htm)

（※上記に記載したウェブサイトのアドレスは、いずれも平成30年2月 日現在のものです。）



## 2 「教科に関する調査」調査結果

### (1) 小・中学校各教科平均正答率の状況

- 平成29年度の恵庭市平均正答率は、全ての教科において全道・全国平均と同様であった。小学校6年生については、算数Bが全道平均を上回り、国語A・算数Aが全国平均を上回った。中学校3年生については、数学Aが全道平均を上回った。
- 前回（平成28年度）と比べ、小学校全教科と中学校国語Bにおいて全国平均との平均正答率のポイント差が縮小し、全国平均と同様となった。平成26年度以降、小・中学校全ての教科において、全国平均とのポイント差が±5の範囲内となっており、「全国平均と大きな差はみられない」状況が続いている。
- 中学3年生は、3年前（平成26年度、小学6年生時点）の結果と比較し、国語B・算数／数学A・Bにおいて、全国平均とのポイント差が改善（縮小）している。国語Aについては、小学校6年生時点では全国平均を上回っていたが、今回の結果は全国平均を下回った。

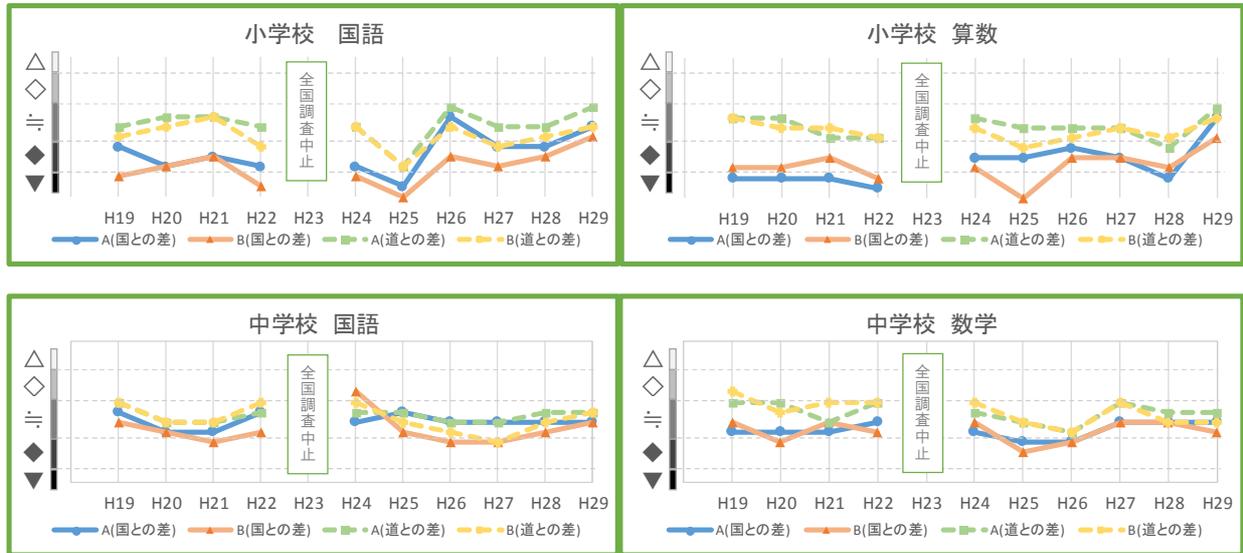
\*平成29年度 恵庭市小・中学校の各教科別平均正答率

		平均正答率							
		小学校				中学校			
		国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
H29 (今回)	恵庭市 (国と比較)	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
	全国平均 (公立)	74.8%	57.5%	78.6%	45.9%	77.4%	72.2%	64.6%	48.1%
	恵庭市 (道と比較)	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
	全道平均 (公立)	73.7%	56.3%	77.3%	43.5%	76.7%	71.7%	63.7%	46.9%
	正答率の 位置	道<国<≒	≒<道<国	道<国<≒	道<≒<国	≒<道<国	≒<道<国	道<≒<国	≒<道<国
H28 (前回)	恵庭市 (国と比較)	◆	◆	◆	◆	≒	◆	≒	≒
	恵庭市 (道と比較)	≒	≒	◆	≒	≒	≒	≒	≒
	正答率の 位置	≒<道<国							

記号の意味 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る

\* 調査開始（平成19年度）以降の平均正答率（全国・全道との比較）推移

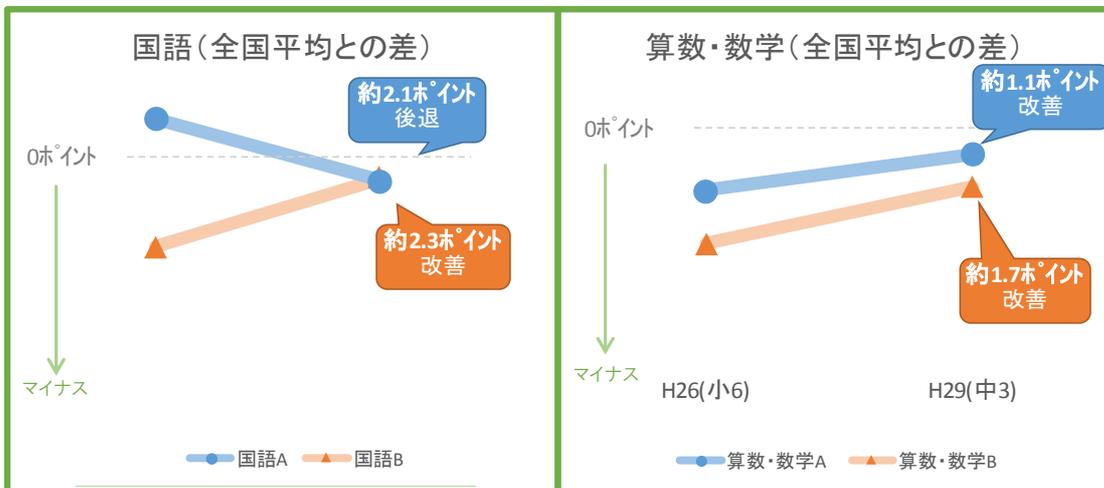
【ポイント差を表す記号の変化のグラフ】



記号の意味 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る

- ・平成23年度の調査は、東日本大震災の影響等を考慮し国としては実施を中止した（希望校のみの参考実施となり、恵庭市では全ての小・中学校が参加）ため、全国の結果（平均正答率など）が示されていません。
- ・平成22年度及び平成24年度の調査は、統計的な基準で選ばれた学校を対象とする「抽出調査」方式で実施されたため、他の年度と異なり、全国の結果（平均正答率など）に全ての学校の結果が反映されていません。（希望校も任意に実施できる形式であり、恵庭市では全ての小・中学校が参加して調査結果の提供を受けていますので、恵庭市の結果については市内全学校の結果に基づいています。）

\* 同一世代の平均正答率の変化（平成26年度の小学6年生→今年度の中学3年生）



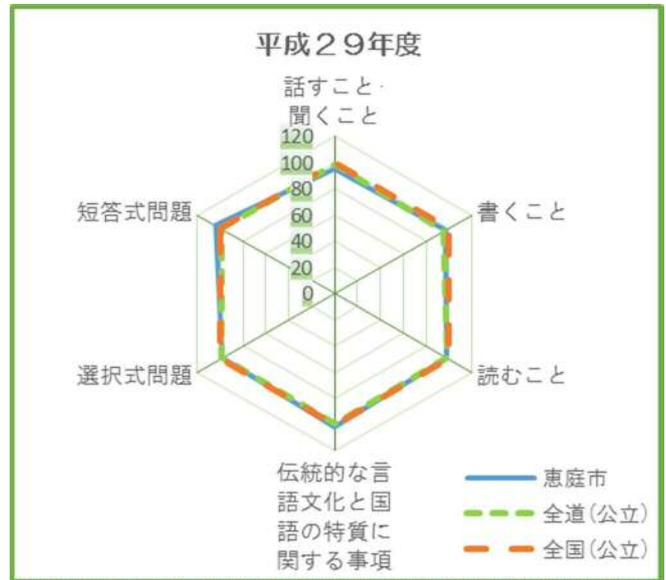
(2) 教科別調査結果の詳細

① 小学校 国語A (主として「知識」に関する問題)

解答時間20分・設問数15問

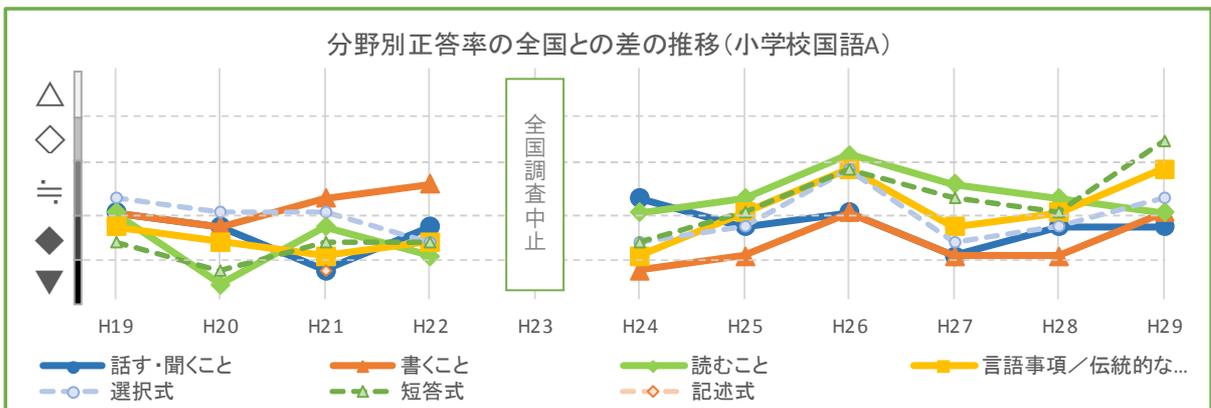
- 各領域等の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」で全国よりやや下回り、「短答式問題」が全国をやや上回った。他の分野については、全国と同様。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、前年度より4ポイント程度下がり、全国より2ポイント低い。
- 漢字の読み書きについて、全体としてある程度できており、正答率が全国より上回っている。一方で、互いの話を聞き、話し合うこと・手紙の後付けを書くこと、俳句の理解について課題がある。
- 全体として回答率が高く、無回答率が10パーセントを下回った問題はなかった。

\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\*小学校国語A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H29 (今回)	恵庭市	○	●	○	○	○	◎	本形式の問題なし
	国と比較	◆	◆	≒	≒	≒	◇	
	全国(公立)	69.2%	60.6%	70.2%	78.0%	71.7%	79.4%	
	道と比較	◆	≒	≒	◇	≒	◇	
全道(公立)	68.2%	57.6%	68.9%	77.3%	70.4%	78.7%		
H28 (前回)	国と比較	◆	▼	≒	≒	◆	≒	
道と比較	≒	◆	≒	≒	≒	≒		
記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る							



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

※※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

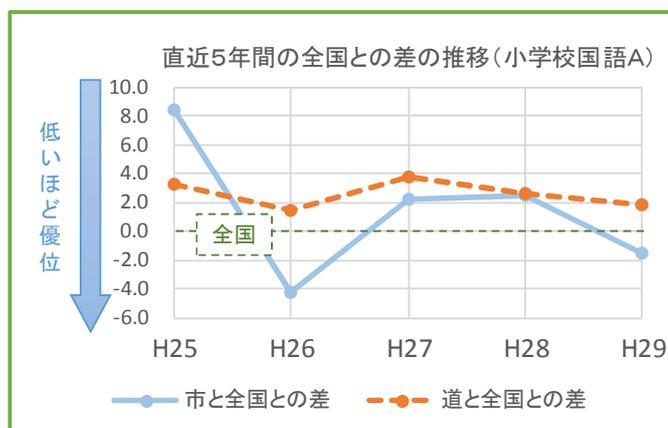
\*平成29年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H29 (今回)	恵庭市 (前回比)	<b>20.8%</b> (-3.0)	<b>-1.5</b> (-4.0)
	全国 (前回比)	<b>22.3%</b> (+1.0)	
	全道 (前回比)	<b>24.1%</b> (+0.2)	1.8 (-0.8)
H28 (前回)	恵庭市	<b>23.8%</b>	<b>2.5</b>
	全国	21.3%	
	全道	23.9%	2.6

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

\*恵庭市における設問別結果の概要

全15問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	2問	話すこと・聞くこと	0 / 1問	選択式問題	0 / 9問
		書くこと	0 / 2問	短答式問題	2 / 6問
		読むこと	0 / 3問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	2 / 11問	※領域の重複する設問がある。	
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	3問	話すこと・聞くこと	1 / 1問	選択式問題	3 / 9問
		書くこと	1 / 2問	短答式問題	0 / 6問
		読むこと	1 / 3問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	1 / 11問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が 10%以上の設問	なし				

【無解答率とは】

児童・生徒が問題に取り組むのを断念し、何も解答しなかった割合です。その問題がねらいとしている内容を考えたり、書いたりすること自体を「難しい」「手に負えない」と感じていることが表れています。したがって、無解答率の高い問題では、解き方や考え方の習熟に課題があり、指導にいつもの丁寧さや工夫が求められるといえます。

\* 主な設問別結果一覧

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領 上の「領域」等)	形式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問</b>									
7(1)	漢字を書く (参加たいしょう)	学年別漢字配当表に 示されている漢字を 正しく書く	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	短答	■	42.0%	◇	39.1%	△
7(5)	漢字を書く (箱が <b>お</b> いてあります)	学年別漢字配当表に 示されている漢字を 正しく書く	伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	短答	◎	76.8%	△	78.5%	△
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問</b>									
1	学級文集のタイトルを 決める話し合いにおける 野村さんの報告の説明 として適切なものを選 択する	互いの話を聞き、考 えの共通点や相違点 を整理しながら、進 行に沿って話し合う	話すこと・聞くこと	選択	○	69.2%	◆	68.2%	◆
2二	手紙の後付けに必要 な、日付、署名、宛て 名のそれぞれの位置に ついて、適切なもの を選択する	手紙の構成を理解 し、後付けを書く	書くこと	選択	■	41.5%	◆	36.2%	≡
4一	俳句の情景について考 えたこととして適切な ものを選択する	俳句の情景を捉える	読むこと	選択	○	79.4%	▼	77.9%	◆

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る ▼下回る

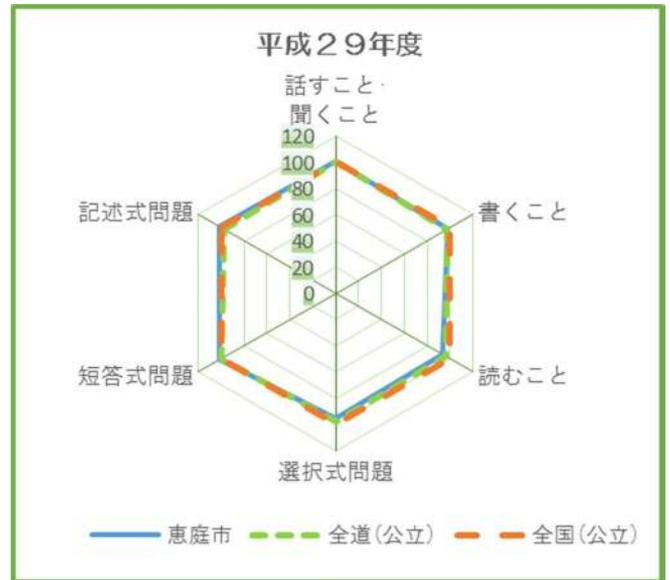


② 小学校 国語 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間40分・設問数9問

- 各領域等の平均正答率は、全国と比較して、「読むこと」「選択式問題」で全国をやや下回っているが、その他の領域等では全国とほぼ同様である。また、全道と比較すると、全ての領域で同様である。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は全国より2ポイント程度多いが、前年度より3ポイント程度下がり、全道と同程度になった。
- 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く設問は比較的できていた。
- 目的や意図に応じて文章全体の構成を考える/引用して書くなど、主体的な判断を伴う記述式問題を解くことに課題がある。
- 文章を読み、自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える設問の正答率が低く、具体的な叙述から自分の考えをまとめる設問の無回答率が20パーセントを上回ることから、文章の内容を受けて、考察することに課題がある。

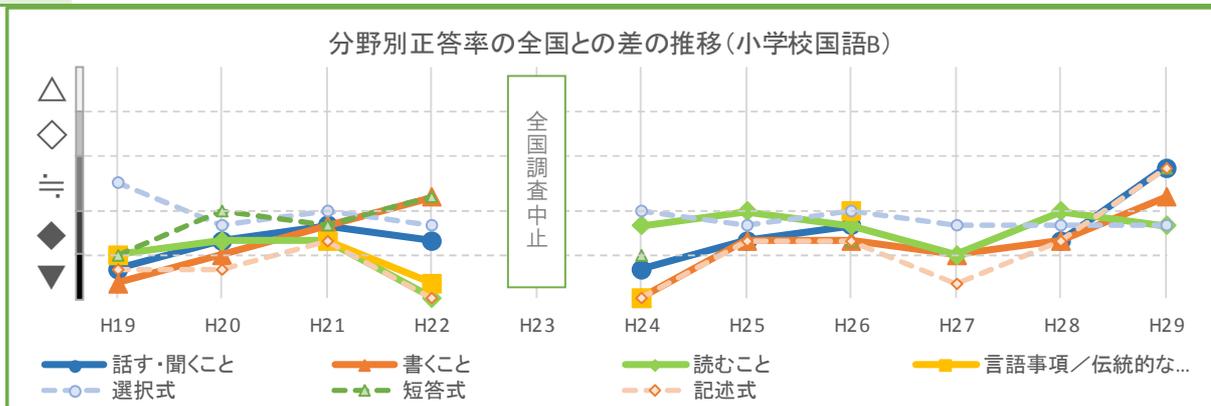
\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\*小学校国語B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

	領域別正答率				問題形式別正答率			
	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題	
H29 (今回)	恵庭市	○	●	・	本形式の問題なし	○	○	・
	国と比較	≒	≒	◆		◆	≒	≒
	全国(公立)	64.9%	53.4%	49.2%		64.6%	69.2%	41.7%
	道と比較	≒	≒	≒		≒	≒	≒
	全道(公立)	65.0%	51.9%	47.3%		63.0%	69.1%	40.8%
H28 (前回)	国と比較	◆	◆	≒	◆	問題なし	◆	
	道と比較	≒	◆	≒	≒	問題なし	≒	

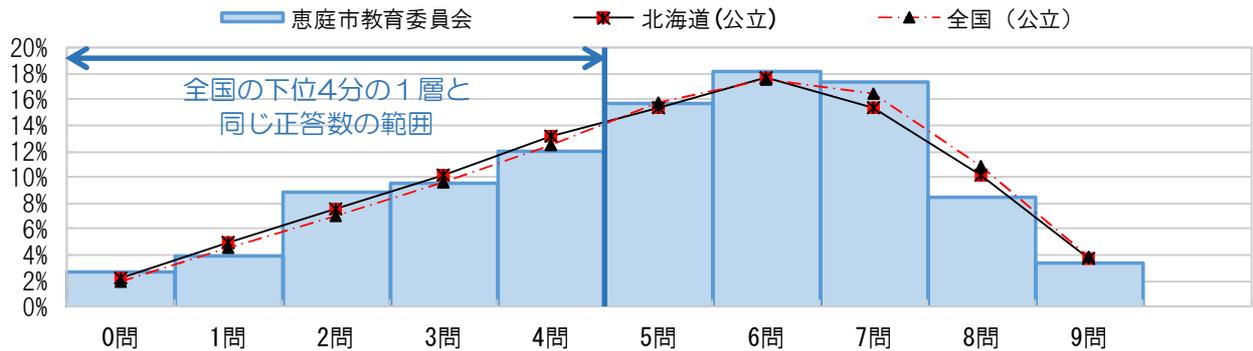
記号の意味: 恵庭市の正答率が... ○80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
 比較先よりも平均正答率が... △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

※※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

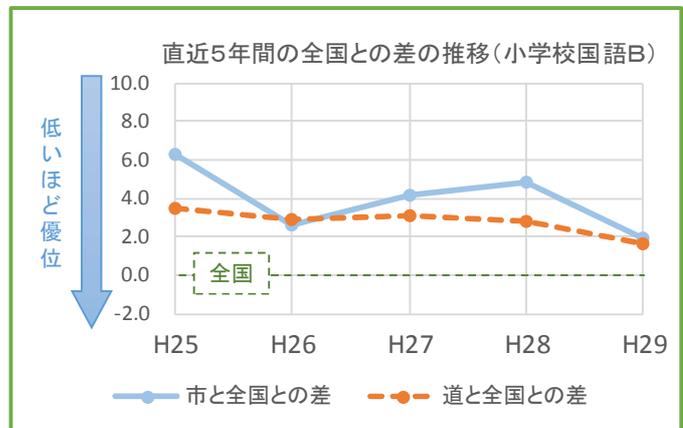
\*平成29年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H29 (今回)	恵庭市 (前回比)	<b>25.1%</b> (-9.5)	<b>1.9</b> (-2.9)
	全国 (前回比)	<b>23.2%</b> (-6.6)	
	全道 (前回比)	<b>24.8%</b> (-7.8)	1.6 (-1.2)
H28 (前回)	恵庭市	<b>34.6%</b>	<b>4.8</b>
	全国	29.8%	
	全道	32.6%	2.8

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



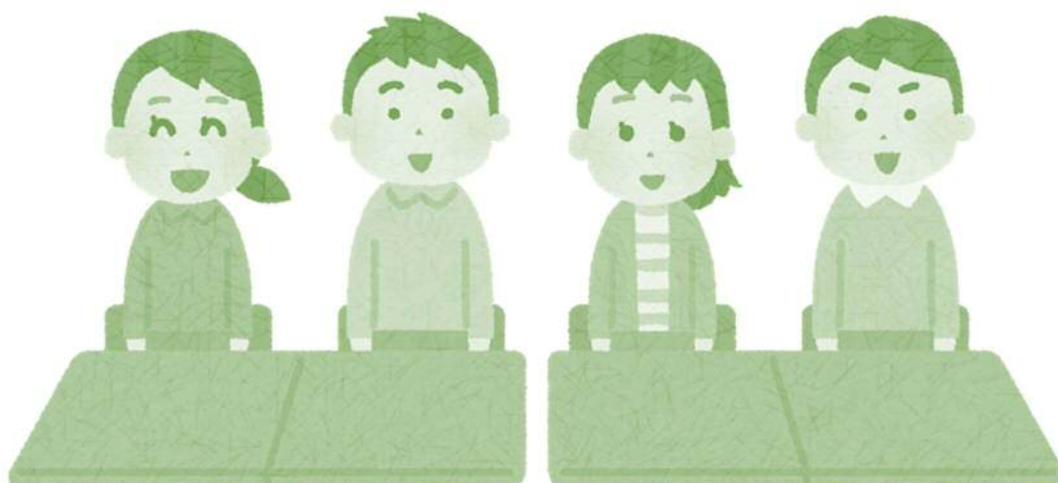
※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

\*恵庭市における設問別結果の概要

全9問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 5問
		書くこと	1 / 5問	短答式問題	0 / 1問
		読むこと	0 / 3問	記述式問題	1 / 3問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	3問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	3 / 5問
		書くこと	2 / 5問	短答式問題	0 / 1問
		読むこと	1 / 3問	記述式問題	0 / 3問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が 10%以上の設問	1問	話すこと・聞くこと	0 / 3問	選択式問題	0 / 5問
		書くこと	1 / 5問	短答式問題	0 / 1問
		読むこと	1 / 3問	記述式問題	1 / 3問
		伝統的な言語文化...	/ 0問	※領域の重複する設問がある。	

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)													
						正答率	比較	正答率	比較												
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問</b>																					
2三	「水やりに協力してくれる人をぼ集めます」の【イ】に入る内容を、中学生からの【アドバイス】を基に書く	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く	書くこと	記述	■	33.0%	◇	32.8%	◇												
										無解答率とその比較	2.6%	2.8%	-0.2	3.3%	-0.7						
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問 【下位5問抜粋】</b>																					
2一	【緑のカーテン作りへの協力のお願ひ】における文章の構成の工夫として当てはまるものを選択する	目的や意図に応じて、文章全体の構成を考える	書くこと	選択	○	70.8%	▼	68.2%	◆												
										無解答率とその比較	0.0%	0.7%	-0.7	0.6%	-0.6						
2二	【友達の考え】と同じ考えの人を説得するために引用する文章を、【『緑のカーテンを始めよう』の一部】から選択する	目的や意図に応じ、引用して書く	書くこと	選択	○	70.9%	◆	68.7%	≡												
										無解答率とその比較	3.2%	3.2%	0.0	3.6%	-0.4						
3二	「きつねの写真」を読んだあとの話合いにおけるア・イの発言の意図として、適切なものをそれぞれ選択する	自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉える	読むこと	選択	■	28.0%	▼	27.7%	▼												
										無解答率とその比較	1.9%	3.2%	-1.3	3.4%	-1.5						
<b>★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問</b>																					
3三	「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんととび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く	物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる	書くこと・読むこと	記述	■	43.7%	≡	41.6%	≡												
										無解答率とその比較	23.1%	19.4%	+3.7	23.0%	+0.1						
<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:15%;">記号の意味</td> <td style="width:15%;">恵庭市の正答率が…</td> <td style="width:15%;">◎80%以上</td> <td style="width:15%;">○60%～79%</td> <td style="width:15%;">●50%～59%</td> <td style="width:15%;">・49%以下</td> </tr> <tr> <td></td> <td>比較先よりも平均正答率が…</td> <td>△上回る</td> <td>◇やや上回る</td> <td>≡同様</td> <td>◆やや下回る ▼下回る</td> </tr> </table>										記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%～79%	●50%～59%	・49%以下		比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る ▼下回る
記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%～79%	●50%～59%	・49%以下																
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る ▼下回る																

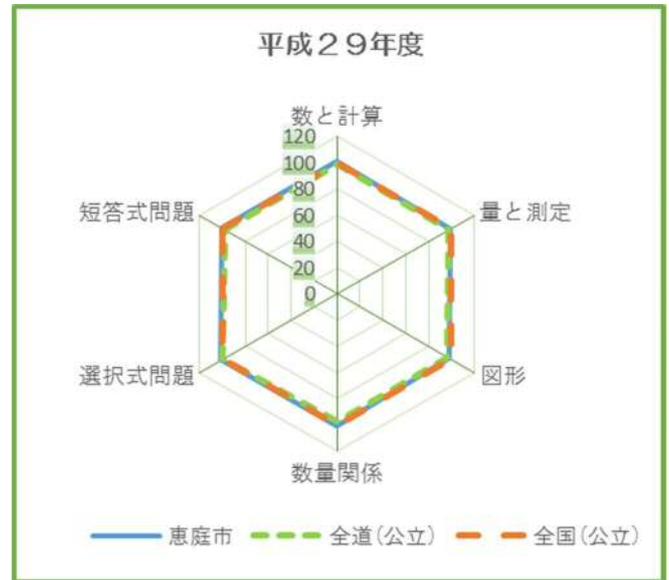


③ 小学校 算数 A (主として「知識」に関する問題)

解答時間20分・設問数15問

- 各領域等の平均正答率は、全ての領域が前年度より上回り、全国と同様となった。また、全道との比較では「数と計算」「数量関係」「短答式問題」が全道の平均正答率をやや上回っている。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は前年度から8ポイント程度下がり、前年度は全道/全国のポイントを上回っていたが、今年度は全道/全国のいずれのポイントよりも下回っていた。
- 「数と計算」の領域に、全国の前答率を3ポイント以上上回る設問が3問あった。乗除や公倍数等の計算問題が比較的できるようであった。
- また、全国の前答率より3ポイント以上下回る設問と、無回答率が10パーセントを上回る設問はなかった。

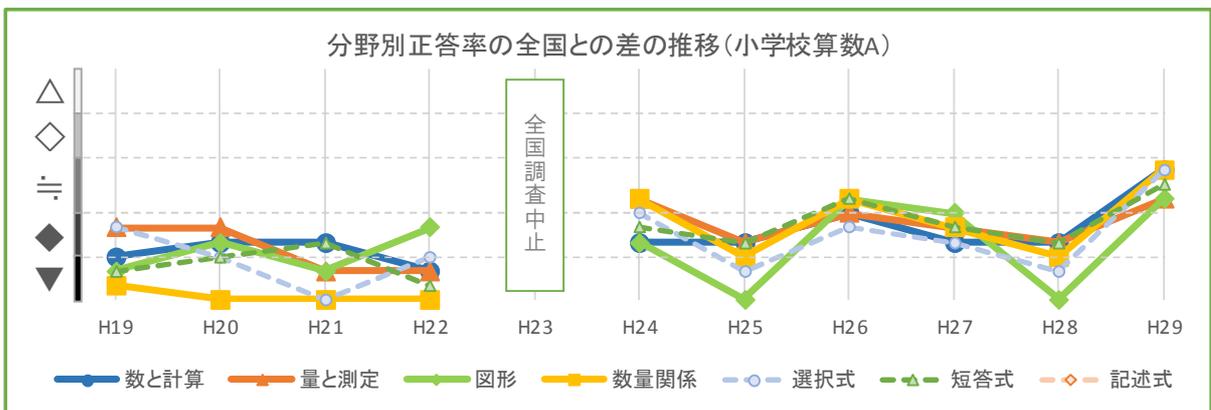
\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\*小学校算数 A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

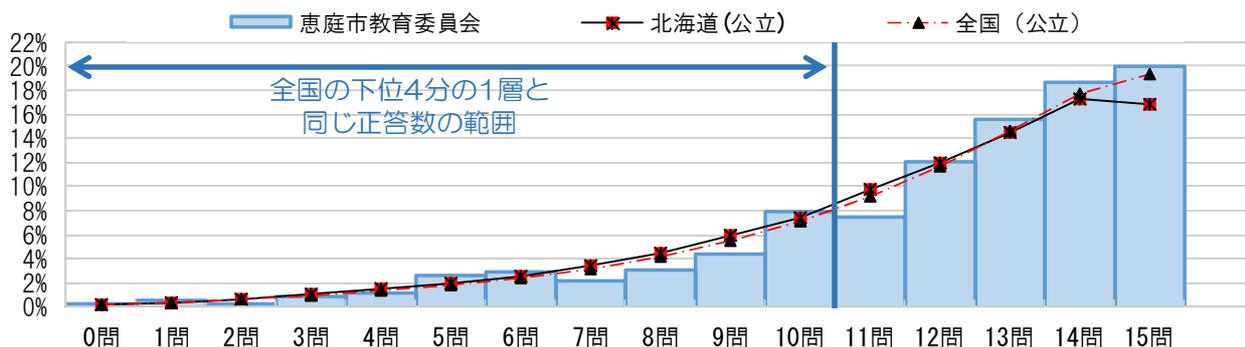
		領域別正答率				問題形式別正答率			
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式問題	短答式問題	記述式問題	
H29 (今回)	恵庭市	◎	○	○	◎	◎	○	本形式の問題なし	
	国と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒		
	全国(公立)	80.6%	68.8%	81.1%	79.6%	79.6%	77.8%		
	道と比較	◇	≒	≒	◇	≒	◇		
全道(公立)	79.5%	67.1%	78.2%	77.9%	79.0%	75.7%			
H28 (前回)	国と比較	◆	◆	▼	◆	▼	◆		
	道と比較	≒	◆	◆	◆	◆	◆		

記号の意味  
 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

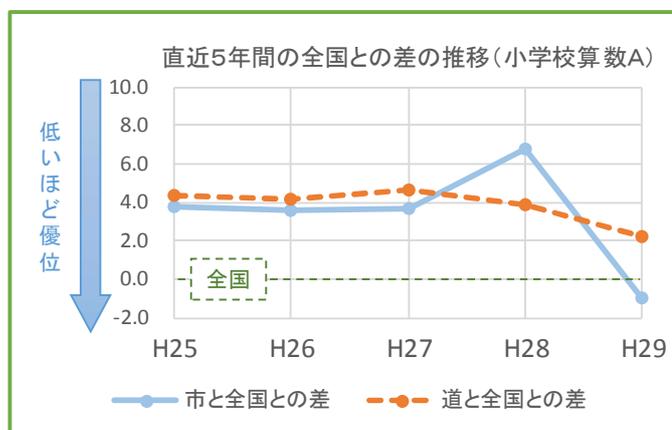
\*平成29年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H29 (今回)	恵庭市 (前回比)	<b>26.3%</b> (-4.7)	<b>-1.0</b> (-7.8)
	全国 (前回比)	<b>27.3%</b> (+3.1)	
	全道 (前回比)	<b>29.5%</b> (+1.4)	2.2 (-1.7)
H28 (前回)	恵庭市	<b>31.0%</b>	<b>6.8</b>
	全国	24.2%	
	全道	28.1%	3.9

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、およその傾向が把握できる。

\*恵庭市における設問別結果の概要

全15問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	3問	数と計算	3 / 8問	選択式問題	1 / 7問
		量と測定	0 / 2問	短答式問題	2 / 8問
		図形	0 / 2問	記述式問題	/ 0問
		数量関係	0 / 5問	※領域の重複する設問がある。	
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	なし				
無解答率が 10%以上の設問	なし				

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★ 恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問									
1(2)	買ったリボンの長さ、1m当たりのリボンの値段と、代金が、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ	1より小さい小数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる	数と計算	選択	○	69.9%	◇	71.9%	◇
						無解答率とその比較	1.4%	1.8%	-0.4
2(4)	5 ÷ 9 の商を分数で表す	商を分数で表すことができる	数と計算	短答	○	69.2%	◇	67.1%	△
						無解答率とその比較	1.5%	3.9%	-2.4
3	8と12の最小公倍数を求める	二つの数の最小公倍数を求めることができる	数と計算	短答	◎	86.2%	◇	86.5%	◇
						無解答率とその比較	0.3%	1.2%	-0.9

記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下
	比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る

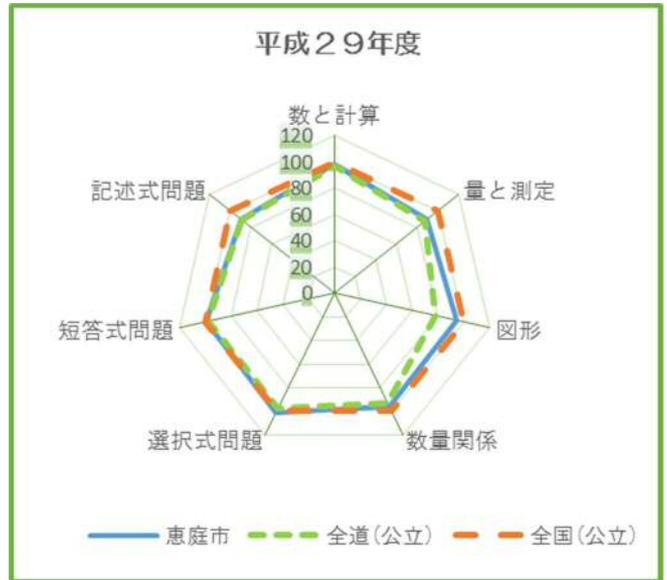


④ 小学校 算数 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間40分・設問数13問

- 各領域等の平均正答率は、「量と測定」で全国より下回り、「記述式問題」で全国よりやや下回った。その他の領域等は、全国と同様であった。また、「図形」「選択式問題」で全道を上回り、その他の領域等は全道と同様である。一方で、全国とのポイント差は、「量と測定」「図形」「記述式問題」以外で前年度より縮小している。
- 正答数が全国下位4分の1層の児童の割合は、前年度より2ポイント程度下回り、全国より3.2ポイント多いが全道を下回った。
- 与えられた数量の関係を一般化して捉えることや、示された数値から平均の求め方を記述するような設問に課題があり、無回答率も高い傾向にある。
- 全国の前年度正答率を3ポイント以上上回る設問は見られなかった。

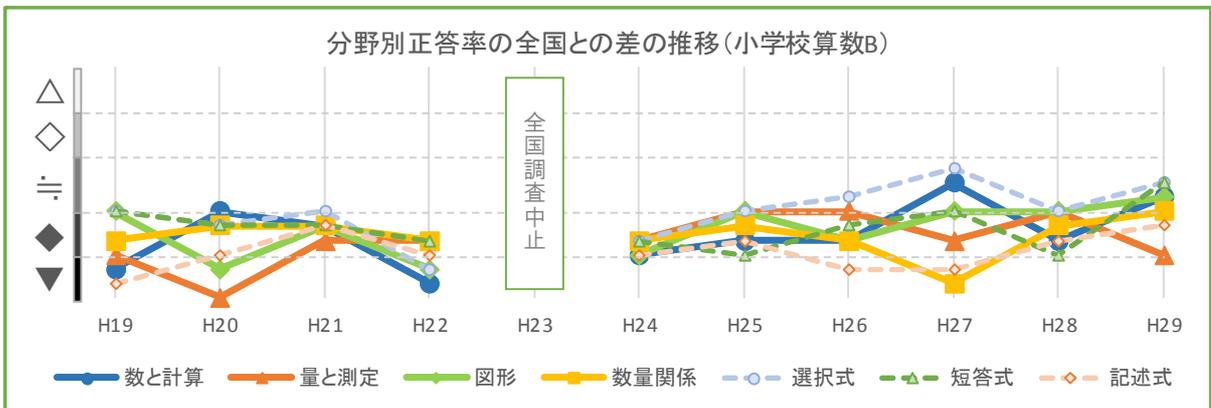
\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\*小学校算数 B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

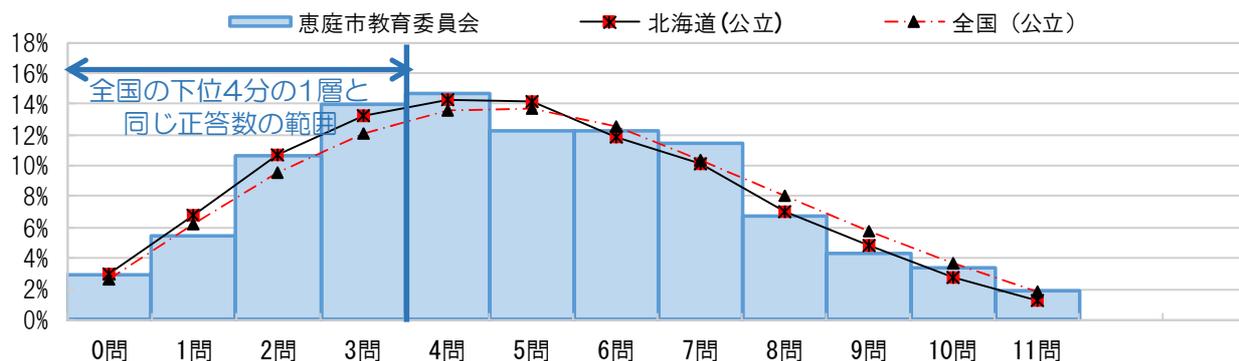
		領域別正答率				問題形式別正答率		
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H29 (今回)	恵庭市	●	・	・	・	●	○	・
	国と比較	≒	▼	≒	≒	≒	≒	◆
	全国(公立)	52.8%	47.0%	13.2%	40.0%	54.1%	61.7%	31.6%
	道と比較	≒	≒	◇	≒	◇	≒	≒
	全道(公立)	51.1%	41.3%	10.4%	37.3%	52.4%	60.0%	28.3%
H28 (前回)	国と比較	◆	≒	≒	◆	◆	▼	◆
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒

記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

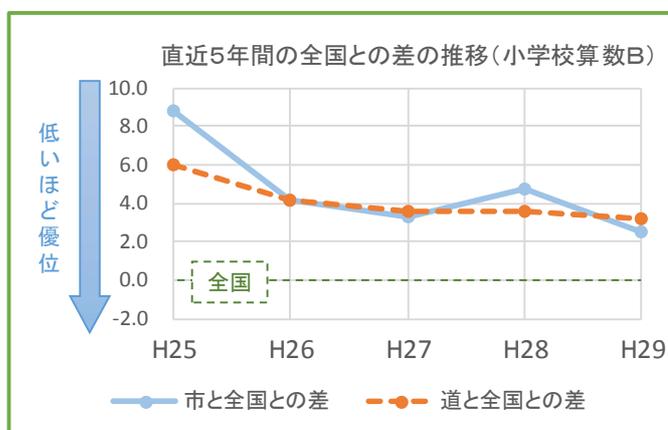
\*平成29年度 正答数の分布状況（横軸：正答数、縦軸：児童全体に占める割合）



\*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H29 (今回)	恵庭市 (前回比)	<b>33.0%</b> (+8.3)	<b>2.5</b> (-2.2)
	全国 (前回比)	<b>30.5%</b> (+10.5)	
	全道 (前回比)	<b>33.7%</b> (+10.1)	3.2 (-0.4)
H28 (前回)	恵庭市	<b>24.7%</b>	<b>4.7</b>
	全国	20.0%	
	全道	23.6%	3.6

※割合は正答数ごとにまとめており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

\*恵庭市における設問別結果の概要

全 13 問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	2問	数と計算	1 / 5問	選択式問題	0 / 3問
		量と測定	1 / 2問	短答式問題	0 / 3問
		図形	0 / 1問	記述式問題	2 / 5問
		数量関係	2 / 8問	※領域の重複する設問がある。	
無解答率が 10%以上の設問	2問	数と計算	1 / 5問	選択式問題	0 / 3問
		量と測定	1 / 2問	短答式問題	0 / 3問
		図形	0 / 1問	記述式問題	2 / 5問
		数量関係	2 / 8問	※領域の重複する設問がある。	

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問									
1(3)	2けたのひき算の答えを求めることができるきまりを書く	問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述できる	数と計算・数量関係	記述	■	38.6%	◆	37.6%	◆
						無解答率とその比較	20.0%	14.9%	+5.1
3(2)	仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める	仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる	量と測定・数量関係	記述	■	26.1%	▼	18.4%	≡
						無解答率とその比較	17.8%	12.7%	+5.1

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る ▼下回る

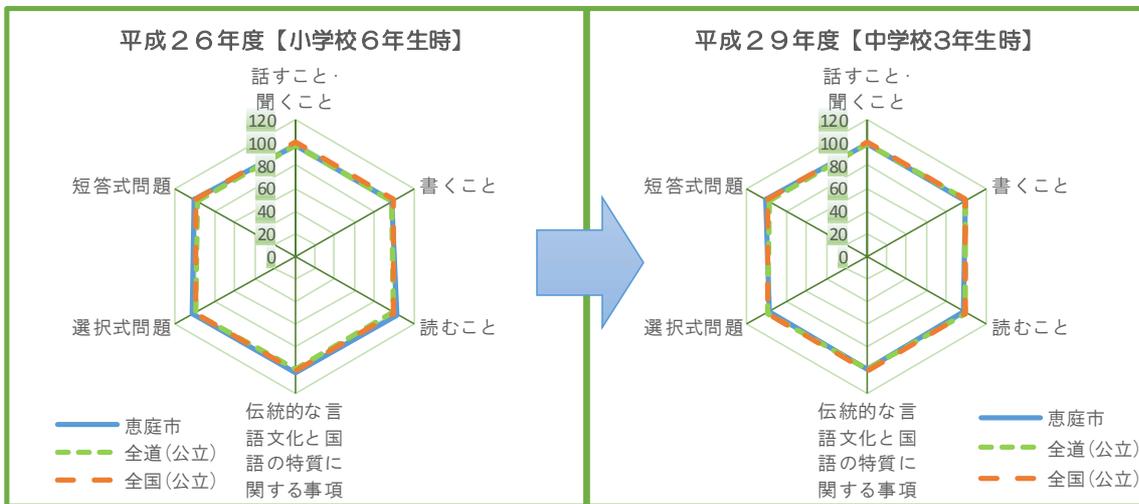


⑤ 中学校 国語A (主として「知識」に関する問題)

解答時間45分・設問数32問

- 各領域の平均正答率は、全ての領域がおおよそ75%~85%の範囲にあり、全国とのポイント差はほぼない。「短答式問題」は昨年度より全道・全国と差が縮まっており、全道をやや上回っている。
- 平成26年度(小学校6年生時点)と比較して、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「短答式問題」で全国との平均正答率のポイント差が縮まっている。一方、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「選択式問題」はポイント差が開いている。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合は全国より0~2ポイント多い範囲で推移しており、今回は前年度からほぼ横這いであった。
- 漢字を書く問題の無回答率が高いことや、文脈に合致する適切な語句を選択する問題の正答率が低いことから、国語の個本的な知識・語句の意味を定着させることが課題と言える。

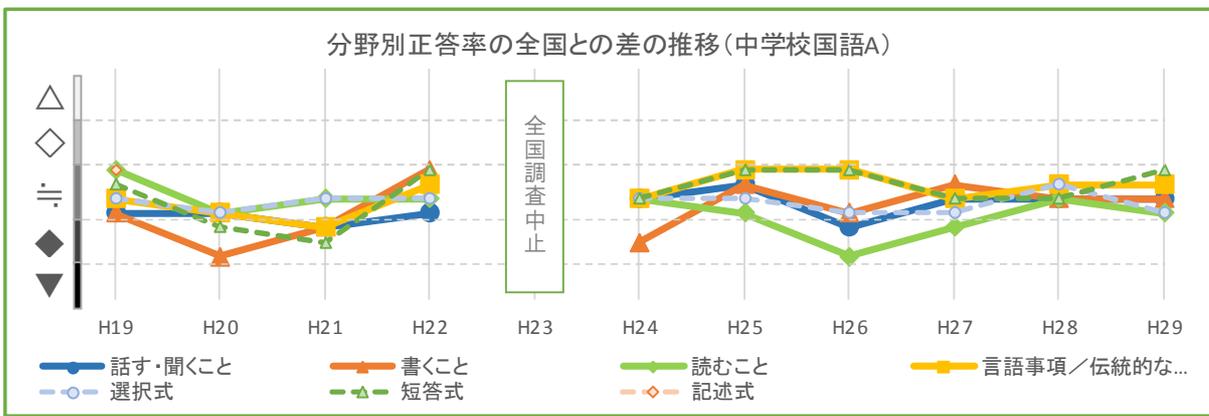
\*全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\*中学校国語A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

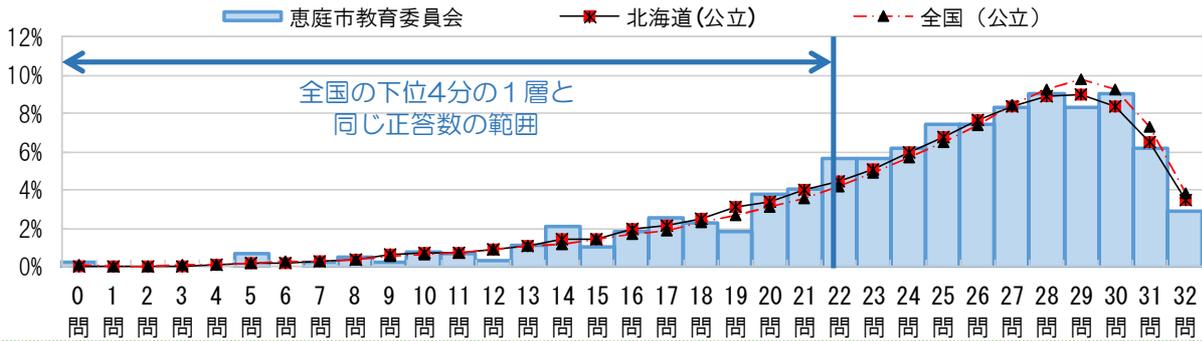
		領域別正答率				問題形式別正答率		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H29 (今回)	恵庭市	○	◎	○	○	○	○	本形式の問題なし
	国と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	
	全国(公立)	75.4%	85.7%	73.8%	77.2%	78.5%	75.1%	
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	◇	
	全道(公立)	75.0%	85.3%	73.1%	76.3%	78.1%	73.5%	
H28 (前回)	国と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	

記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≒同様	◆やや下回る ▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度における**おおよその傾向**を表したグラフである。  
 ※※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

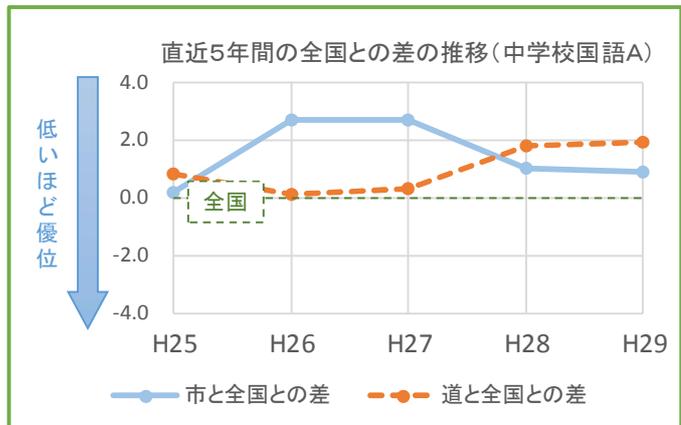
＊平成29年度 正答数の分布状況(横軸：正答数、縦軸：生徒全体に占める割合)



＊全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H29 (今回)	恵庭市 (前回比)	<b>24.1%</b> (-3.4)	<b>0.9</b> (-0.1)
	全国 (前回比)	<b>23.2%</b> (-3.3)	
	全道 (前回比)	<b>25.1%</b> (-3.2)	1.9 (+0.1)
H28 (前回)	恵庭市	<b>27.5%</b>	<b>1.0</b>
	全国	26.5%	
	全道	28.3%	1.8

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

＊恵庭市における設問別結果の概要

全 3 2 問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	2問	話すこと・聞くこと	0 / 4問	選択式問題	1 / 22問
		書くこと	0 / 4問	短答式問題	1 / 10問
		読むこと	0 / 6問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	2 / 18問		
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	8問	話すこと・聞くこと	1 / 4問	選択式問題	7 / 22問
		書くこと	0 / 4問	短答式問題	1 / 10問
		読むこと	3 / 6問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	4 / 18問		
無解答率が 10%以上の設問	2問	話すこと・聞くこと	0 / 4問	選択式問題	0 / 22問
		書くこと	0 / 4問	短答式問題	2 / 10問
		読むこと	0 / 6問	記述式問題	/ 0問
		伝統的な言語文化...	2 / 18問		

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問</b>									
9-2	漢字を書く(雨で運動会が <u>エンキ</u> になる)	文脈に即して漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	○	62.3%	△	58.0%	△
					無解答率とその比較	9.2%	13.5%	-4.3	13.1%
9七2	「徒然草」の作品の種類として適切なものを選択する	古典には様々な種類の作品があることを知る	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	◎	78.5%	△	81.4%	◇
					無解答率とその比較	1.0%	1.3%	-0.3	1.2%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問</b>									
2-1	スピーチをより分かりやすくするためにイラストを提示する箇所として適切なものを選択する	目的に応じて資料を効果的に活用して話す	話すこと・聞くこと	選択	◎	87.8%	▼	85.9%	◆
					無解答率とその比較	0.2%	0.1%	+0.1	0.1%
4-1	見出しの内容に対するまとめとして適切なものを選択する	文章の要旨を捉える	読むこと	選択	○	81.0%	▼	80.3%	◆
					無解答率とその比較	0.2%	0.2%	0.0	0.1%
6-1	登場する人物を整理したものに当てはまる人物の組合せとして適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	読むこと	短答	○	74.8%	◆	73.1%	◆
					無解答率とその比較	0.2%	0.5%	-0.3	0.4%
6二	「どれもこれも仁王を蔵しているのはなかった」の意味として適切なものを選択する	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する	読むこと	選択	●	60.1%	◆	58.3%	≡
					無解答率とその比較	0.2%	0.5%	-0.3	0.4%
9-1	漢字を書く(組織の <u>主</u> を大きくする)	文脈に即して漢字を正しく書く	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	●	62.8%	▼	53.1%	◇
					無解答率とその比較	19.8%	15.8%	+4.0	19.5%
9三ア	適切な語句を選択する(えりを正して話を聞く)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	○	76.9%	▼	74.9%	◆
					無解答率とその比較	0.5%	0.7%	-0.2	0.5%
9三イ	適切な語句を選択する(よい結果を早く出したときは、 <u>急がば回れ</u> といわれるように、かえって慎重に議論を進めるべきだ)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	●	61.4%	▼	59.1%	▼
					無解答率とその比較	0.3%	0.7%	-0.4	0.6%
9三ウ	適切な敬語を選択する(先生もこの書店をよく <u>ご利用</u> になるのですね)	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択	◎	85.7%	◆	82.7%	≡
					無解答率とその比較	0.3%	0.7%	-0.4	0.5%
<b>★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問</b>									
9五	話合いの記録として適切な言葉を考える	事象や行為などを表す多様な語句について理解する	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	短答	▪	35.8%	≡	36.5%	≡
					無解答率とその比較	11.3%	13.1%	-1.8	13.4%

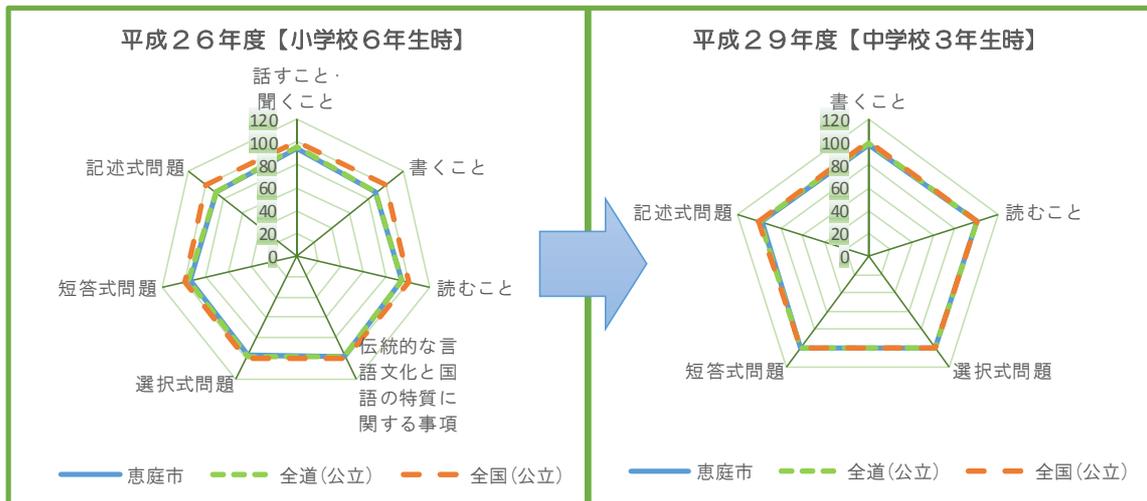
記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る ▼下回る

⑥ 中学校 国語 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間45分・設問数9問

- 各領域等の平均正答率は、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国をやや下回っているが、そのほかに全国より3ポイントを超えて下回った領域等はなく、全道とはほぼ同様の状況である。また、全ての領域等で、全道と同様である。
- 平成26年度(小学校6年生時点)と比較して、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」以外の全ての領域等で、特に「読むこと」「選択式問題」「短答式問題」を中心に全国との平均正答率のポイント差が縮まっている。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合については2ポイント以上減少し、前年度より全国・全道とのポイント差が1ポイント以内まで縮小した。
- 自分の考えを書く問題の正答率が比較的低く、無回答率が高いことから、自身の考えを整理し、記述する力に課題があると考えられる。また、与えられた文章を読み取る問題の正答率がやや高いことから、文章から必要な情報を見つけ出す力が全体としてやや高いことが読み取れる。

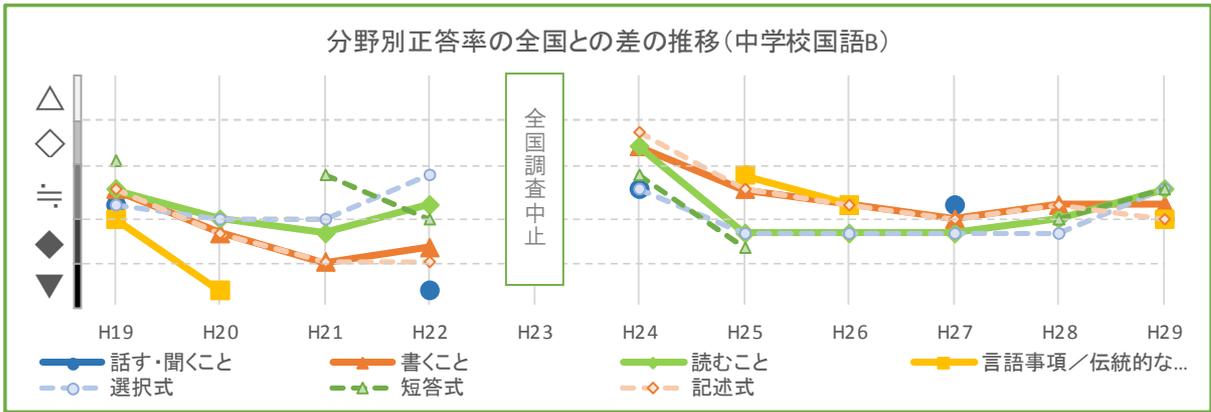
\* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\* 中学校国語 B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H29 (今回)	恵庭市	○	●	○	・	○	◎	●
	国と比較	≒	≒	≒	◆	≒	≒	≒
	全国(公立)	72.4%	60.8%	72.1%	41.4%	79.6%	84.1%	55.9%
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
H28 (前回)	全国(公立)	71.9%	60.1%	71.9%	40.7%	79.2%	83.8%	55.2%
	国と比較	問題形式なし	≒	◆	問題形式なし	◆	≒	≒
	道と比較	問題形式なし	≒	≒	問題形式なし	≒	≒	≒

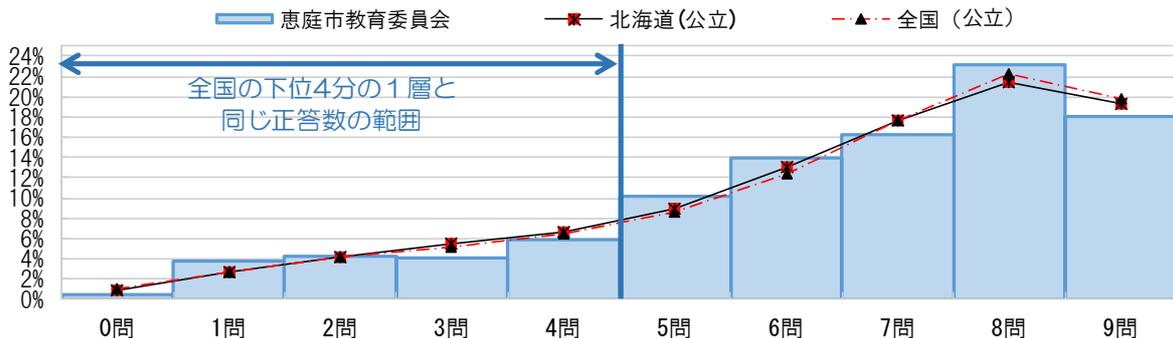
記号の意味 恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下  
 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度における**おおよその傾向**を表したグラフである。

※※「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」はH23まで「言語事項」。

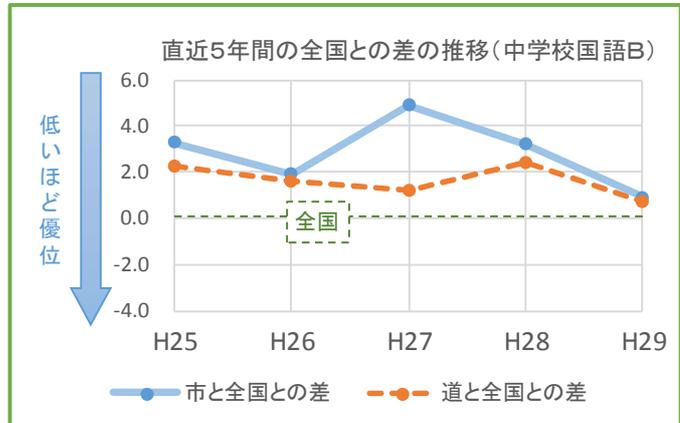
＊平成29年度 正答数の分布状況(横軸:正答数、縦軸:生徒全体に占める割合)



＊全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H29 (今回)	恵庭市 (前回比)	<b>28.7%</b> (+0.1)	<b>0.9</b> (-2.3)
	全国 (前回比)	<b>27.8%</b> (+2.4)	
	全道 (前回比)	<b>28.5%</b> (+0.7)	0.7 (-1.7)
H28 (前回)	恵庭市	<b>28.6%</b>	<b>3.2</b>
	全国	25.4%	
	全道	27.8%	2.4

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

＊恵庭市における設問別結果の概要

全9問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	なし				
無解答率が10%以上の設問	1問	話すこと・聞くこと	1 / 3問	選択式問題	0 / 5問
		書くこと	1 / 4問	短答式問題	0 / 1問
		読むこと	1 / 4問	記述式問題	1 / 3問
		伝統的な言語文化...	0 / 1問	※領域の重複する設問がある。	

\* 主な設問別結果一覧

設問 番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領 上の「領域」等)	形 式	恵庭市 正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問									
1三	比喻を用いた表現に着目し、感じたことや考えたことを書く	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く	書くこと・読むこと・伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	記述	■	41.4%	◆	40.7%	≡
					無解答率とその比較				
記号の意味		恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る							

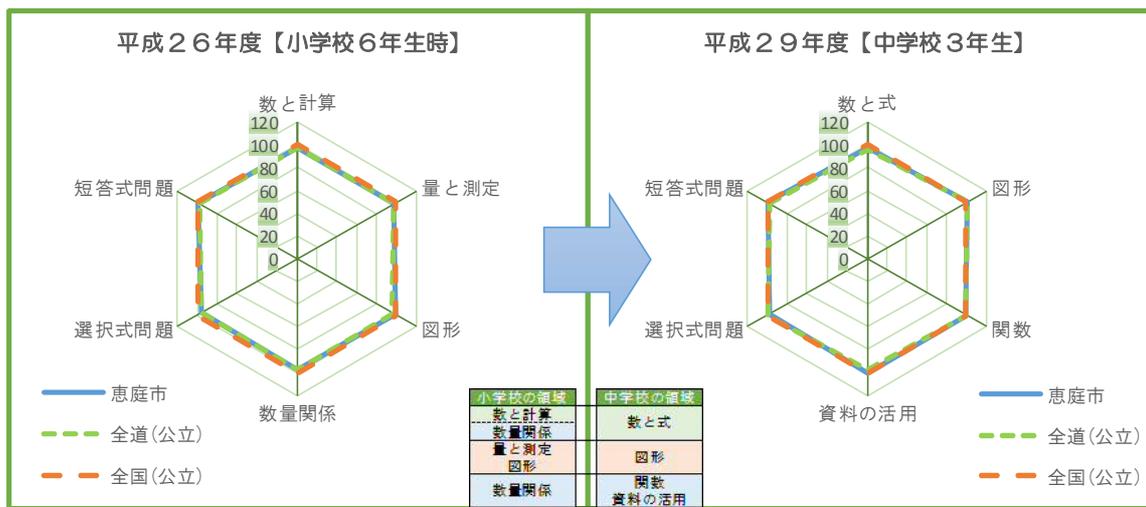


⑦ 中学校 数学 A (主として「知識」に関する問題)

解答時間45分・設問数36問

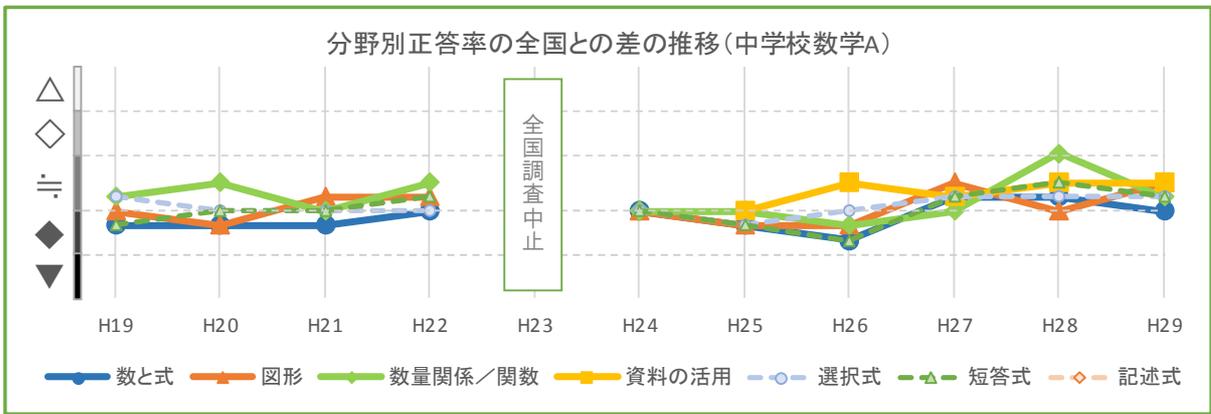
- 各領域等の平均正答率は、「数と式」で全国をやや下回っているものの、その他の全ての領域で全道・全国と同様である。全年度と比較して、「図形」が全国と、「資料の活用」「選択式問題」が全道との差を縮めている。
- 平成26年度(小学校6年生時点)と比較して、全ての領域等で全国とのポイント差が縮小した。特に「図形」「資料の活用」のポイントの上がり幅が大きく、平成29年度では全国をわずかに上回った。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合については、わずかに全国との差が小さくなったがほぼ横這いであり、全国と同様といえる。全道よりは割合が低く、恵庭市が優位のままわずかに差が開いた。
- 「数と式」では、文字式・方程式などの計算や文章問題などの比較的正答率の高い問題において、全国の正答率を下回りやすい傾向にある。このことから、基本的な計算や立式の仕方の理解に課題があると考えられる。
- 「短答式」の、特に全国より平均正答率の低い問題は、あわせて無回答率も高い傾向にあることから、回答することを諦めてしまう生徒が比較的多いことが推察される。

\* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



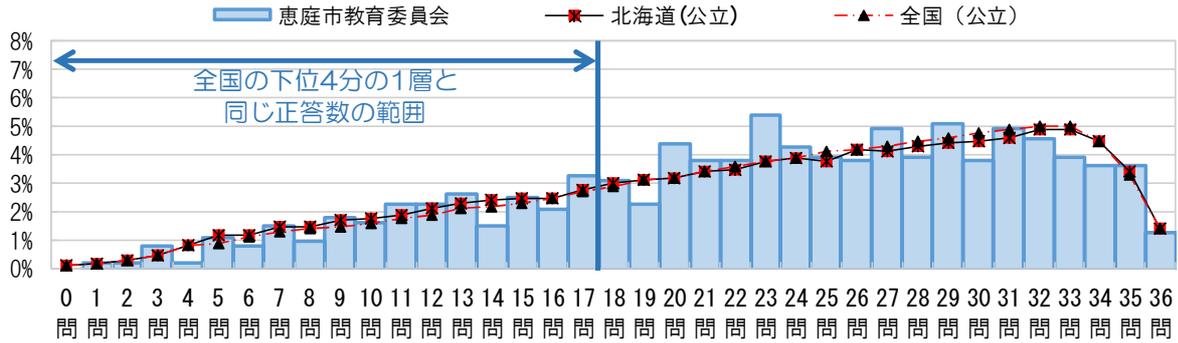
\* 中学校数学 A 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

		領域別正答率				問題形式別正答率			
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題	
H29 (今回)	恵庭市	○	○	●	●	○	○	本形式の問題なし	
	国と比較	◆	≒	≒	≒	≒	≒		
	全国(公立)	70.4%	66.0%	57.4%	57.6%	66.8%	63.4%		
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒		
H28 (前回)	全道(公立)	68.1%	66.4%	56.9%	56.0%	66.8%	61.9%		
	国と比較	≒	◆	≒	≒	≒	≒		
	道と比較	≒	≒	≒	◆	◆	≒		
記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る								



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度における**おおよその傾向**を表したグラフである。  
 ※「関数」はH24まで「数量関係」、「資料の活用」はH25新設。

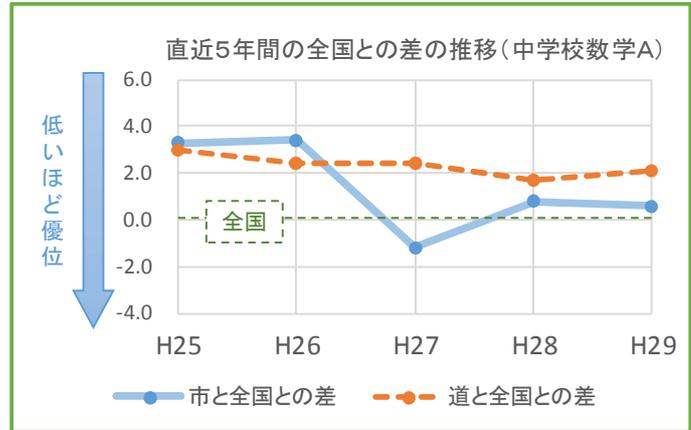
＊平成29年度 正答数の分布状況(横軸:正答数、縦軸:生徒全体に占める割合)



＊全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H29 (今回)	恵庭市 (前回比)	<b>25.8%</b> (-0.1)	<b>0.6</b> (-0.2)
	全国 (前回比)	<b>25.2%</b> (+0.1)	
	全道 (前回比)	<b>27.3%</b> (+0.5)	2.1 (+0.4)
H28 (前回)	恵庭市	<b>25.9%</b>	<b>0.8</b>
	全国	25.1%	
	全道	26.8%	1.7

※割合は正答数ごとにまとまっており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

＊恵庭市における設問別結果の概要

全36問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を 3ポイント以上上回った設問	6問	数と式	1 / 12問	選択式問題	2 / 13問
		図形	3 / 12問	短答式問題	4 / 23問
		関数	1 / 8問	記述式問題	/ 0問
		資料の活用	1 / 4問		
全国の正答率を 3ポイント以上下回った設問	11問	数と式	6 / 12問	選択式問題	3 / 13問
		図形	3 / 12問	短答式問題	8 / 23問
		関数	1 / 8問	記述式問題	/ 0問
		資料の活用	1 / 4問		
無解答率が 10%以上の設問	10問	数と式	3 / 12問	選択式問題	0 / 13問
		図形	2 / 12問	短答式問題	10 / 23問
		関数	3 / 8問	記述式問題	/ 0問
		資料の活用	2 / 4問		

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上上回った設問</b>									
2(3)	(2x+5y)-(6x-3y)を計算する	整式の加法と減法の計算ができる	数と式	短答	◎	78.5%	△	77.5%	△
					無解答率とその比較	0.5%	1.7%	-1.2	1.6%
4(1)	角の二等分線の作図の根拠となる対称な図形を選ぶ	角の二等分線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している	図形	選択	○	67.4%	◇	66.8%	◇
					無解答率とその比較	0.5%	1.0%	-0.5	0.8%
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	図形	短答	◎	78.6%	△	79.2%	△
					無解答率とその比較	3.3%	4.9%	-1.6	4.9%
8	事柄「∠ABD=∠CBD, ∠ADB=∠CDBならば, AB=CBである。」の仮定をすべて書く	命題の仮定と結論を区別し, 与えられた命題の仮定を読み取ることができる	図形	短答	○	74.3%	△	76.8%	◇
					無解答率とその比較	8.7%	10.1%	-1.4	10.1%
12	線香が燃えるときの時間と長さの関係を表したグラフを基に, 2cm燃えるときの時間を選ぶ	具体的な事象における2つの数量の変化や対応を, グラフから読み取ることができる	関数	選択	○	67.6%	◇	66.9%	◇
					無解答率とその比較	0.5%	1.1%	-0.6	0.9%
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問 【下位5問抜粋】</b>									
1(2)	aとbが負の数のときに四則計算の結果が負の数になるものを選ぶ	2つの負の数の和は負の数になることを理解している	数と式	選択	○	69.3%	▼	67.0%	▼
					無解答率とその比較	0.0%	0.2%	-0.2	0.1%
1(4)	3月25日を基準にして3月23日を負の数で表す	実生活の場面において, ある数量が正の数と負の数で表されることを理解している	数と式	短答	◎	89.4%	▼	87.6%	◆
					無解答率とその比較	3.8%	2.8%	+1.0	3.0%
3(2)	数量の関係を一元一次方程式で表す	具体的な場面で, 一元一次方程式をつくることことができる	数と式	短答	▪	52.8%	▼	52.2%	▼
					無解答率とその比較	17.8%	16.6%	+1.2	17.0%
6(1)	錯角の位置にある角について正しい記述を選ぶ	錯角の意味を理解している	図形	選択	▪	43.1%	▼	47.7%	▼
					無解答率とその比較	0.0%	0.6%	-0.6	0.5%
10(3)	反比例の表から比例定数を求める	与えられた反比例の表において, 比例定数の意味を理解している	関数	短答	▪	34.4%	▼	34.4%	▼
					無解答率とその比較	20.5%	20.8%	-0.3	21.2%
<b>★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問 【4問抜粋】</b>									
2(1)	5mの重さがagの針金の1mの重さを, aを用いた式で表す	数量の関係を文字式で表すことができる	数と式	短答	●	56.3%	◆	53.1%	≡
					無解答率とその比較	10.0%	8.1%	+1.9	10.0%
9	長方形の縦の長さや面積の関係を, 「…は…の関数である」という形で表現する	関数の意味を理解している	関数	短答	▪	20.6%	≡	20.1%	≡
					無解答率とその比較	20.5%	20.6%	-0.1	22.1%
11(1)	一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に, 式で表すことができる	一次関数のグラフの傾きと切片の値を基に, xとyの関係を y=ax+b の式で表すことができる	関数	短答	○	75.9%	≡	75.2%	≡
					無解答率とその比較	10.3%	10.1%	+0.2	11.0%
14(1)	反復横とびの記録の範囲を求める	範囲の意味を理解している	資料の活用	短答	▪	28.6%	◇	25.7%	△
					無解答率とその比較	11.5%	9.6%	+1.9	11.3%

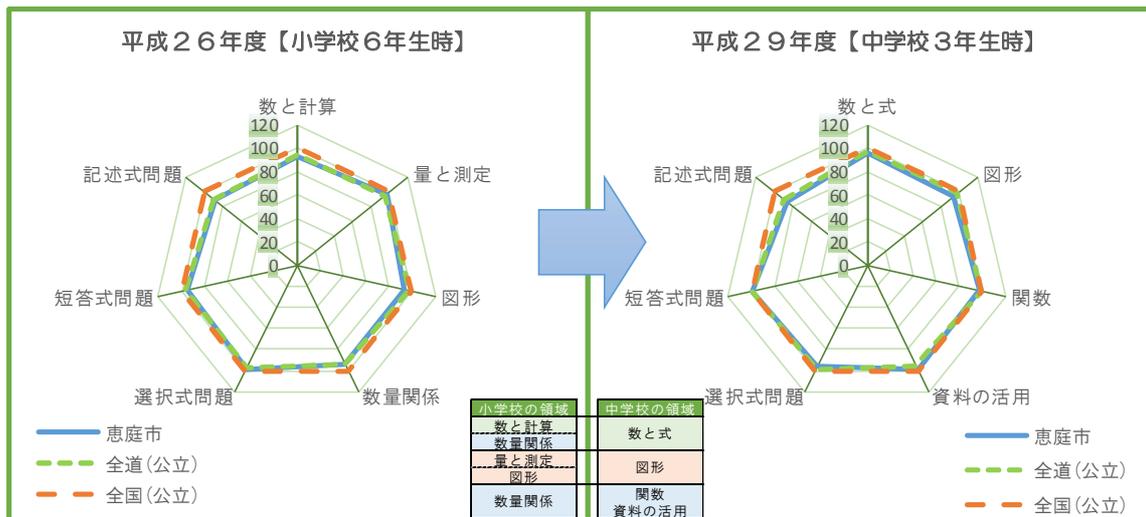
記号の意味	恵庭市の正答率が…	◎80%以上	○60%~79%	●50%~59%	・49%以下
	比較先よりも平均正答率が…	△上回る	◇やや上回る	≡同様	◆やや下回る ▼下回る

⑧ 中学校 数学 B (主として「活用」に関する問題)

解答時間45分・設問数15問

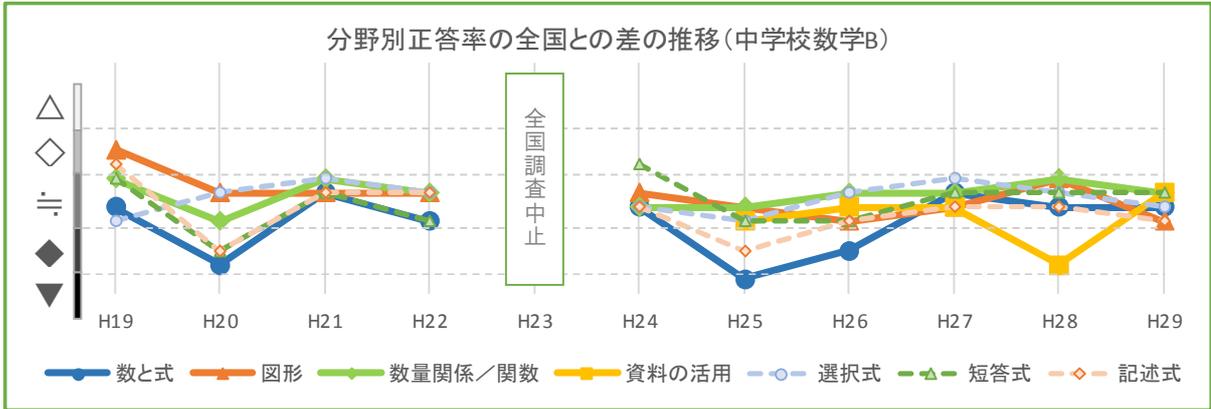
- 各領域等の平均正答率は、「図形」「選択式問題」「記述式問題」で全国をやや下回っている。一方で、全ての領域等において、全道と同様であった。前年は「資料の活用」が全国より下回っていたが、今回は全国との差を縮小し、同様となっている。
- 平成26年度(小学校6年生時点)と比較して、「数量関係(中学校での「数と式」「資料の活用」に相当)を中心にほとんどの領域で全国とのポイント差が縮小しているが、「量と測定(中学校での「図形」に相当)」については、ポイント差が拡大した。
- 正答数が全国下位4分の1層の生徒の割合については、平成25年度以降、全国とのポイント差がゆるやかに改善(底上げ)していたが、今年度はわずかに上昇し、全国より少し高いポイントとなった。
- 無回答率が10パーセント以上となった問題が15問中7問あった。また、全国の前年より3パーセント以上低い設問3問中2問の無回答率が10パーセント以上であったことから、解答に向けた設問への取り組み方に課題のある生徒が多いことが考えられる。
- 与えられた表/グラフ/資料を読み取る設問の正答率が比較的高いことから、示された情報の中から適切かつ必要な情報を取捨選択する力があると推察される。

\* 全国平均正答率を100とした時の恵庭市平均正答率(分野別レーダーチャート)



\* 中学校数学 B 分野別(領域・問題形式別)平均正答率の状況

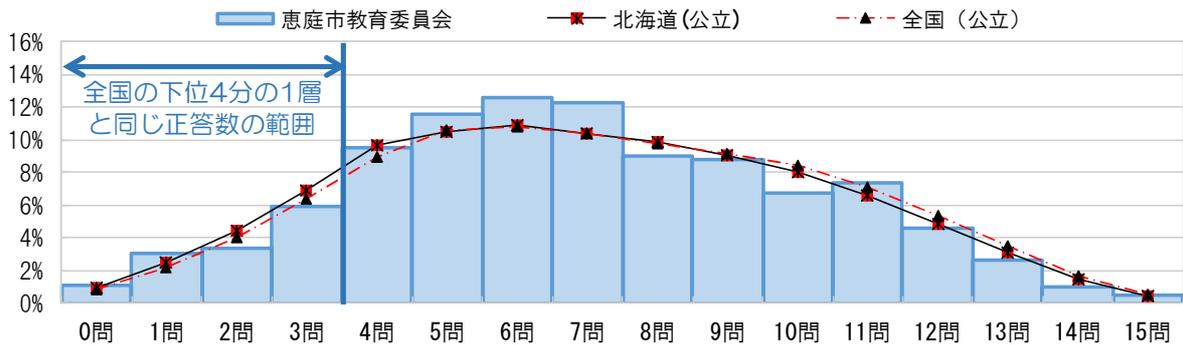
		領域別正答率				問題形式別正答率		
		数と式	図形	関数	資料の活用	選択式問題	短答式問題	記述式問題
H29 (今回)	恵庭市	・	・	・	・	●	○	・
	国と比較	≒	◆	≒	≒	◆	≒	◆
	全国(公立)	46.3%	47.1%	50.8%	49.1%	53.8%	66.3%	21.7%
	道と比較	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
	全道(公立)	44.9%	46.0%	50.8%	46.8%	53.1%	65.6%	19.5%
H28 (前回)	国と比較	≒	≒	≒	▼	≒	≒	≒
	道と比較	≒	≒	≒	◆	≒	≒	≒
記号の意味		恵庭市の正答率が… ○80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≒同様 ◆やや下回る ▼下回る						



※全国とのポイント差を単純化した数値をもとに、各年度におけるおおよその傾向を表したグラフである。

※「数量関係」はH25より「関数」と「資料の活用」に分離。

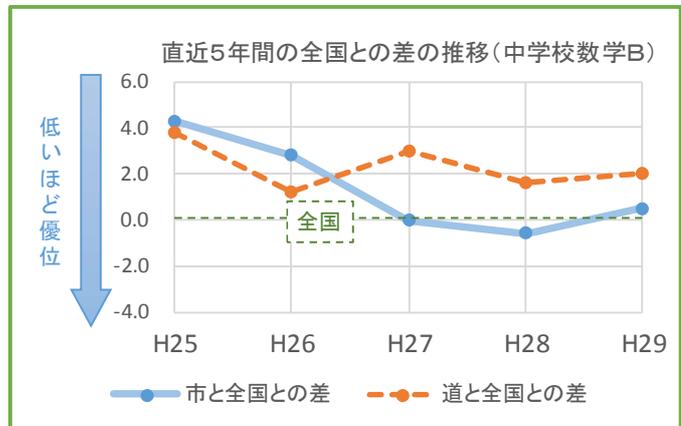
#### \*平成29年度 正答数の分布状況(横軸:正答数、縦軸:生徒全体に占める割合)



#### \*全国の下位4分の1層と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

		割合 (低い程良好)	全国との差 (低い程優位)
H29 (今回)	恵庭市 (前回比)	<b>23.0%</b> (+2.3)	<b>0.5</b> (+1.1)
	全国 (前回比)	<b>22.5%</b> (+1.2)	
	全道 (前回比)	<b>24.5%</b> (+1.6)	<b>2.0</b> (+0.4)
H28 (前回)	恵庭市	<b>20.7%</b>	<b>-0.6</b>
	全国	<b>21.3%</b>	
	全道	<b>22.9%</b>	<b>1.6</b>

※割合は正答数ごとにまとめており、通常、丁度4分の1で区切ることができないので、「全国の下位25%に最も近い正答数の範囲」に含まれる児童・生徒の割合を示している。



※比較元となる全国の割合が年度によって異なるため、年度間の単純比較はできないが、おおよその傾向が把握できる。

#### \*恵庭市における設問別結果の概要

全15問中		(領域別内訳)		(形式別内訳)	
全国の正答率を3ポイント以上上回った設問	なし				
全国の正答率を3ポイント以上下回った設問	3問	数と式	0 / 3問	選択式問題	1 / 4問
		図形	3 / 6問	短答式問題	0 / 6問
		関数	0 / 3問	記述式問題	2 / 5問
		資料の活用	0 / 3問		
無解答率が10%以上の設問	7問	数と式	1 / 3問	選択式問題	0 / 4問
		図形	3 / 6問	短答式問題	2 / 6問
		関数	2 / 3問	記述式問題	5 / 5問
		資料の活用	1 / 3問		

\* 主な設問別結果一覧

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	分野(学習指導要領上の「領域」等)	形式	恵庭市正答率	全国(公立)		全道(公立)	
						正答率	比較	正答率	比較
<b>★恵庭市の正答率が全国の正答率を3ポイント以上下回った設問</b>									
1(2)	四角形ABCDの模様が1回の回転移動によって四角形BEFGの模様に重なるとき、どのような回転移動になるかを説明する	2つの図形の間を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することができる	図形	記述	■	14.0%	◆	13.1%	◆
					無解答率とその比較	19.1%	17.7%	+1.4	19.9%
4(1)	2つの角の大きさが等しいことを、三角形の合同を利用して証明する	筋道を立てて考え、証明することができる	図形	記述	■	44.1%	◆	42.3%	◆
					無解答率とその比較	21.9%	20.3%	+1.6	23.1%
4(3)	点Dと点EをBD=CEの関係を保ったまま動かしたとき、∠BFDの大きさについて、正しい記述を選ぶ	証明した事柄を用いて、新たな性質を見いだすことができる	図形	選択	■	44.5%	◆	43.7%	◆
					無解答率とその比較	0.7%	0.9%	-0.2	0.8%
<b>★上記以外で、恵庭市の無解答率が10%以上になった設問 【5問抜粋】</b>									
2(3)	六角形をn個つくるのに必要なストローの本数を、 $6+5(n-1)$ という式で求めることができる理由を説明する	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	数と式	記述	■	14.5%	◆	13.0%	≡
					無解答率とその比較	30.4%	23.4%	+7.0	28.1%
3(2)	与えられた表やグラフを用いて、貯水量が1500万m <sup>3</sup> になるまでに5月31日から経過した日数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる	関数	記述	■	18.4%	◆	15.3%	≡
					無解答率とその比較	39.2%	33.4%	+5.8	37.3%
3(3)	与えられた式から、aの変域に対応するbの変域を求める	数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができる	関数	短答	■	43.2%	≡	47.0%	◆
					無解答率とその比較	19.1%	17.5%	+1.6	18.5%
4(2)	∠BADと∠CBEが20°のとき、∠BEAの大きさを求める	付加された条件の下で、図形の性質を用いることができる	図形	短答	●	60.0%	≡	58.0%	≡
					無解答率とその比較	10.6%	10.9%	-0.3	11.9%
5(3)	「420分未満より420分以上の女子の方が合計点が高い傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる	資料の活用	記述	■	17.6%	◆	13.9%	≡
					無解答率とその比較	36.6%	31.2%	+5.4	36.0%
記号の意味	恵庭市の正答率が… ◎80%以上 ○60%~79% ●50%~59% ・49%以下 比較先よりも平均正答率が… △上回る ◇やや上回る ≡同様 ◆やや下回る ▼下回る								



### 3 「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」調査結果

#### (1) 小学校児童質問紙調査結果の概要

小学校 児童質問紙  
学校質問紙

回答時間20分・質問数92問  
回答時間設定なし・質問数111問

質問紙調査の主な項目の回答結果データは、36ページ以降に掲載しています。

#### ア. 生活習慣

【早寝早起き朝ごはん】早寝早起きについて直接の質問はないが、毎日同じくらいの時刻に起きていると答えた割合は全道と同程度、全国より1ポイント低い。毎日同じくらいの時刻に寝ていると答えた割合は、小学校は全道・全国と同程度であった。朝食を食べていると答えた割合は、全国・全道とおおむね同様である。起床時間・朝食については9割前後の児童が肯定的に回答しているが、就寝時間の肯定的回答は8割程度であり、全国の傾向と同様寝る時間がやや不規則であると言える。

【テレビ・ゲーム・スマホ】1日当たり2時間以上利用していると答えた割合が、テレビでは57.7%と全国より2ポイント高く、ゲームでは32.8%と全国より1.7ポイント高いが、一方で携帯電話やスマートフォンは11.3%と全国より若干低い。長時間テレビやゲームを使用する割合が全国より高いのは、全道と同様の傾向である。前述の就寝時間の分析とあわせて、夜更かしで生活リズムを崩したり、家でのだんらんや学習の時間を損ねないように、道教委の示す全て合わせて2時間以内を目安に、家庭・学校双方から「節度ある利用」を指導していくことが重要である。

【参考】道教委リーフレット「時間の目安を決めて子どもの生活リズムを整える！」  
([http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/jikan\\_meyasu.htm](http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/gks/jikan_meyasu.htm))  
※ 記載したウェブサイトのアドレスは、平成29年2月28日現在のものです。

#### イ. 自分やまわりへの意識

【自尊感情】自分には良いところがあると答えた割合は、72.3%であり、全道・全国より低く、特に全国より5ポイント以上低くなっている。

【挑戦心・親切心】難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していると答えた割合は71.8%であるが、全国より5.6ポイント、全道より3.3ポイント低い。地域の行事へ参加していると答えた割合は57.5%と全国より5ポイント以上低く消極性が見られるが、地域社会などでボランティア活動に参加したことがあると答えた割合が、全国より9.3ポイント、全道より12.1ポイント高く、きわだっている。集団活動や行事などにはやや消極的でも、人の為になる活動には参加しようとする、親切心を発揮できる児童の割合が多いのではないかと考えられる。

#### ウ. 家庭学習

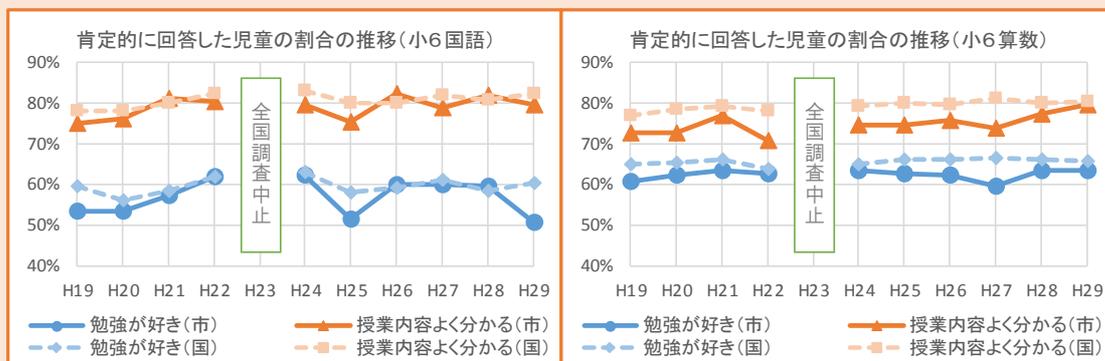
【家庭学習の時間】市教委では、小学校6年生の家庭学習の時間の目安を70分(学年×10分+10分)としている。これをほぼ達成するレベルとして、平日に1時間以上学校以外で勉強していると答えた割合は60.7%であり、全道より3.6ポイント高いが、全国より3.7ポイント低い。休日に1時間以上勉強していると答えた割合は、64.4%であり、全国・全道より7ポイント以上高い。特に平日に習慣として十分な時間を家庭学習に充てることが課題である。(次ページへ続く)

【家庭学習の内容】家で学校の授業の予習をしていると答えた割合は51.2%で、全国より10.2ポイント高く、家で学校の授業の復習をしていると答えた割合は75.7%となり、全国より21.9ポイント、全道より11ポイントも高く、きわだっている。家で、自分で計画を立てて勉強していると答えた割合も、全国より5.3ポイント高いことから、学校での学習指導にもとづき、児童が自主的に家庭学習を実践している傾向にあると考えられる。

## エ. 学校での学習

【学習活動全般・総合的な学習の時間】5年生までに授業の中で自分の考えを発表する機会が与えられていたと答えた割合は、85.8%と高水準であり、全道・全国平均を上回っている。また総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め、調べたことを発表する学習活動に取り組んでいると答えた割合は76.4%で、全国より6.6ポイント、全道より4.5ポイント高い。このことから、日々の授業において自力で課題を見つけ出し、調べ・成果を発表する力が養われていると考えられる。また、詳細は後述するが学校図書館や地域の図書館を利用する割合が非常に高いことから、自身で調べ、適切な情報を見つけ出す力が日常的に培われていることが推察される。

【国語・算数】その教科の勉強が好きと答えた割合は、国語では50.6%と全国・全道より大きく下回り、算数では63.6%と全国より2.3ポイント低い。その教科の授業の内容がよく分かると答えた割合は、国語では79.8%で全国・全道とほぼ同様であり、算数も79.5%と全国とほぼ同様である。この2つの設問に関し（好き・良く分かるなど）肯定的に回答した割合の推移は下図のとおり。国語・算数ともに、これまで、児童の意識に特にきわだった変化はなかったが、平成29年度は前年度と比較して、国語の勉強が好きと答えた児童の割合が大きく下がっている。



また、今回の「教科に関する調査(テスト)」の全ての記述式問題を解くのに最後まで努力したと答えた割合は、国語が全国より2.2ポイント、算数が全国より1ポイント低くなっている。

## オ. 読書

【読書意識】市内全ての小・中学校では、学校司書が配置され、一斉読書の時間を設けるなど、本に親しみ、読書を習慣とする環境づくりを着実にやっている。読書が好きと答えた割合は、83.3%であり、全国・全道より9ポイントほど高く、各学校での取り組みの成果が現れていると思われる。

【読書習慣】(授業時間以外に)平日30分以上読書すると答えた割合は40.7%で、全国より4.2ポイント、全道より5.1ポイント多いが、一方で、平日全く読書しないと答えた割合は21.7%と全国とほぼ同様になっている。学校の図書室や地域の図書館に月1回以上行くと答えた割合は51.8%で、全国より13.2ポイント、全道より17.1ポイント高く、きわだっている。

## (2) 中学校生徒質問紙調査結果の概要

中学校 生徒質問紙  
学校質問紙

回答時間20分・質問数94問  
回答時間設定なし・質問数109問

質問紙調査の主な項目の回答結果データは、36ページ以降に掲載しています。

### ア. 生活習慣

【早寝早起き朝ごはん】毎日同じくらいの時刻に寝ていると答えた割合は71.5%で、全国より4.1ポイント、全道より3.4ポイント低い。全国と比較して、やや就寝時間が不規則であるともいえる。毎日同じくらいの時刻に起きていると答えた割合や、朝食を食べていると答えた割合は、全国・全道とおおむね同様であり、9割超の生徒が肯定的に回答している。

【テレビ・ゲーム・スマホ】1日当たり2時間以上利用していると答えた割合が、テレビでは50.2%（前年比+1.6ポイント）と全国とほぼ同様、ゲームでは42%（前年比+2.8ポイント）と全国より4.4ポイント高く、携帯電話やスマートフォンでは36.6%（前年比+4.5ポイント）と全国より4.4ポイント高い。全道と同様の傾向として、長時間ゲーム・スマホ等を利用する割合が全国より高く、近年ではテレビ・ゲーム・スマホを利用する割合が急激に増加している。

### イ. 自分やまわりへの意識

【自尊感情】自分には良いところがあると答えた割合は64.2%であり、全国より6.5ポイント、全道より5.7ポイント低いが、前年度の生徒（66.2%）と比べ2ポイント割合が増加した。

【挑戦心・親切心】難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していると答えた割合は69.1%であり、全国より1.9ポイント、全道より0.7ポイント低い。また、地域の行事へ参加していると答えた割合は39.2%と全国2ポイント以上低くやや消極性が見られるが、地域社会などでボランティア活動に参加したことがあると答えた割合が、全国より11.7ポイント、全道より16ポイント高く、きわだっており、小学校6年生同様、集団活動や行事などにはやや消極的でも、人の為になる活動には参加しようとする、親切心を発揮できる生徒の割合が多いのではないかと考えられる。

### ウ. 家庭学習

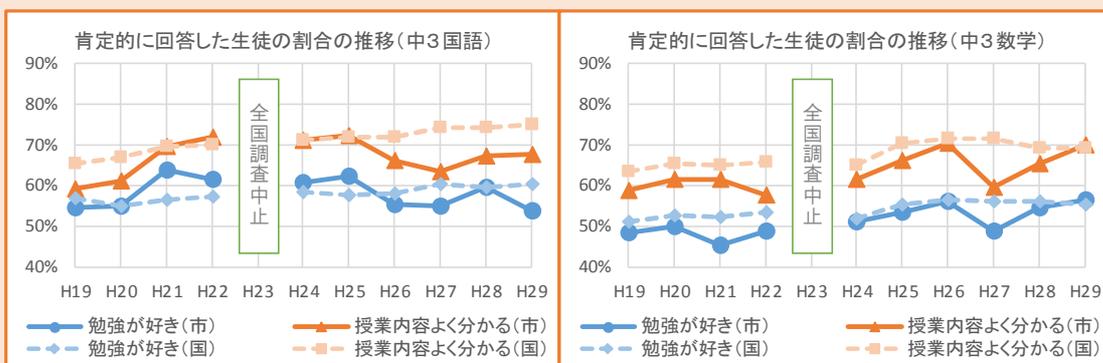
【家庭学習の時間】市教委では、中学校3年生の家庭学習の時間の目安を100分（小1から数えた学年×10分+10分）としている。これをほぼ達成するレベルとして、平日に1時間以上学校以外で勉強していると答えた割合は69.7%であり、全道より5.5ポイント、全国より0.1ポイント高い。今回の中学校3年生が小学校6年生だった時点（平成26年度）では、平日に1時間以上勉強していると答えた割合は58.3%であったので、3年が経過して11.4ポイント増加した。

【家庭学習の内容】家で学校の授業の予習をしていると答えた割合は39.1%で、全道・全国より7.4ポイント高い。また、家で学校の授業の復習をしていると答えた割合は67.2%で、全国より16.7ポイント、全道より10.3ポイント高く、きわだっている。小学校同様、学校において学習内容の定着を目指した家庭学習の指導が行われ、生徒が着実に実践していると考えられる。ただし、家で自分で計画を立てて勉強をしていると答えた割合が全国・全道より3.5~4ポイント程度低い。  
(次ページへ続く)

## エ. 学校での学習

【学習活動全般】（1・2年生のときに受けた）授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと答えた割合は66%で、全国とほぼ同様、全道より6.5ポイント高い。前年度の55.2%から10.8ポイント上昇していることから、**授業中の学習内容振り返りが行われるよう改善された**と捉えることができる。

【国語・数学】その教科の勉強が好きと答えた割合は、**国語**では53.8%で全国より6.7ポイント低く、**数学**では56.7%と全国より1.3ポイント高い。その教科の授業の内容がよく分かったと答えた割合は、**国語**では67.6%と全国より7.3ポイント低く、**数学**では70.1%と全国より0.7ポイント高い。この2つの設問に関し（好き・良く分かるなど）肯定的に回答した割合の推移は下図のとおり。国語の勉強が好きと回答する生徒の割合が平成29年度に減少したのに対し、数学の肯定的回答の割合はやや右肩上がりの傾向にある。



なお、**今回の中学校3年生が小学校6年生だった時点（平成26年度）**では、**その教科の勉強が好きと答えた割合は、国語では59.9%、算数では62.3%**となっており、3年経過して、**国語では割合が6.1ポイント減少、算数（数学）では5.6ポイントほど減少している。その教科の授業の内容がよく分かったと答えた割合は、国語では82.5%、数学では75.9%**であり、3年経過して、**国語が14.9ポイント、数学は5.8ポイント低下している。**

また、今回の「教科に関する調査（テスト）」の全ての記述式問題を解くのに最後まで努力したと答えた割合は、**国語が全国とほぼ同様、数学が全国より3.3ポイント低い**。特に国語については、設問を最後まで解こうとする割合に対して国語の教科への肯定的解答の割合が低いことから、**与えられた学習内容や問題に取り組もうという意欲はあるが、なかなか結果に結びつかないことが苦手意識につながりやすい傾向にあると推察される。**

## オ. 読書

【読書意識】**読書が好きと答えた割合は、78.9%**で、全国より9ポイント、全道より4.9ポイント高い。**今回の中学校3年生が小学校6年生だった時点（平成26年度）**では、**読書が好きと答えた割合は77.6%**であったので、3年経過して**1.3ポイントの上昇がみられた。**

【読書習慣】（授業時間以外に）平日30分以上読書すると答えた割合は29.8%で、平日全く読書しないと答えた割合は34.2%で、全道・全国とおおむね同様である。**学校の図書室や地域の図書館に月1回以上行くと答えた割合は33.1%**で、全国より13.7ポイント、全道より16.4ポイント高く、小学校6年生同様きわだっている。

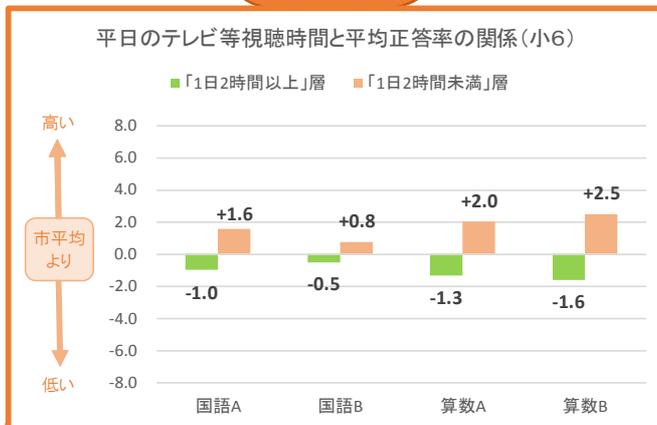
(3) 児童・生徒質問紙の回答状況と学力のクロス集計（基準別集計）結果

今回、児童・生徒質問紙の質問への回答状況をもとに、「テレビ・ゲーム・スマホの利用」「家庭学習」「読書」「部活動（中3のみ）」という6種類の習慣に使っている時間の長・短でグループ分けし、それぞれのグループ別に「教科に関する調査（テスト）」の教科別結果（市平均と比べたときのポイント差）を割り出して、それぞれの習慣に使っている時間の長・短と、各教科の結果に相関関係があるかどうかを考察した。

- 特に、長時間のゲーム・スマホの習慣があることや、家庭学習の習慣が短時間しかないことは、各教科の結果が市平均よりマイナスになることと相関関係があると思われる。また、一定時間の読書習慣があることは、特に国語の結果が市平均よりプラスになることと相関関係があると思われる。

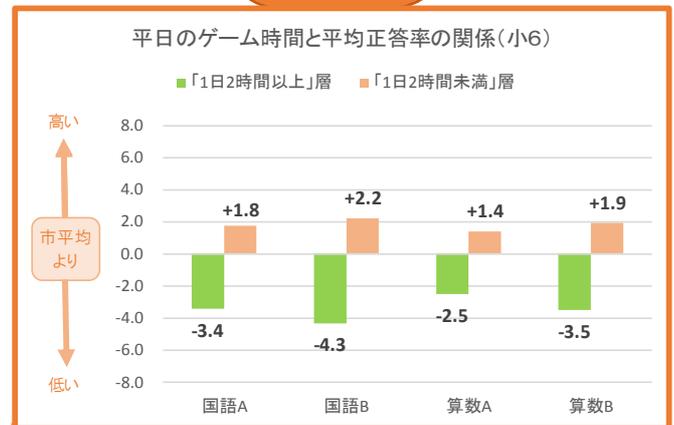
① 小学校6年生

テレビ



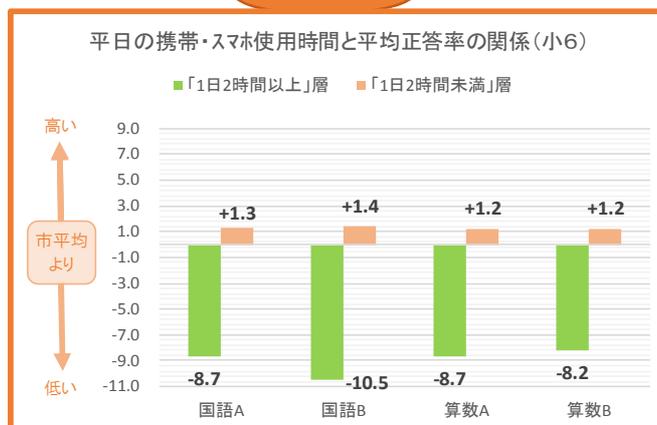
平日1日2時間以上見る層の平均正答率が算数では市平均より1ポイント以上低く、逆に2時間未満しか観ない層は2ポイント以上高い。他教科では大きな差がない。

ゲーム



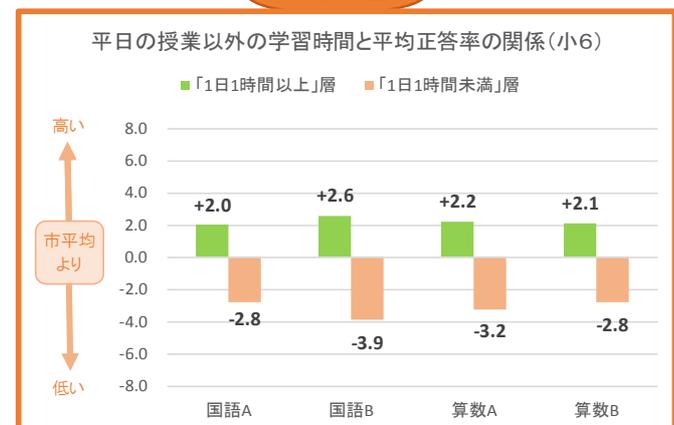
平日1日2時間以上する層の平均正答率が全体的に市平均より2.5~4.5ポイント前後低く、逆に2時間未満しかしない層では2~4ポイント前後高い。

スマホ



平日1日2時間以上する層の平均正答率が算数を中心に市平均より8~10ポイント前後低い。（※層の割合が11.8%と低く、人数が少ないため極端な結果が出やすい側面もある。）

家庭学習



平日1日1時間以上する層の平均正答率が全体的に市平均より2ポイント以上高く、逆に1時間未満しかしない層では2.5~4ポイント前後低い。（※学習塾等での学習時間も含まれたグループ分けである。）

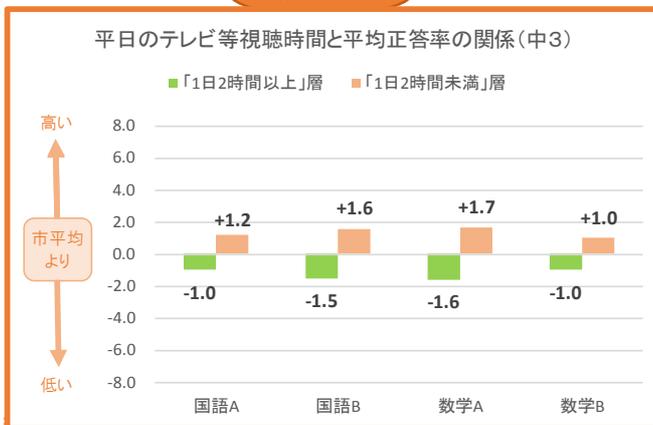
## 読書



平日 1 日 30 分以上する層の平均正答率は、国語 B が市平均より 4 ポイント以上高く、逆に 30 分未満しかしない層では国語を中心に 3 ポイント低い。

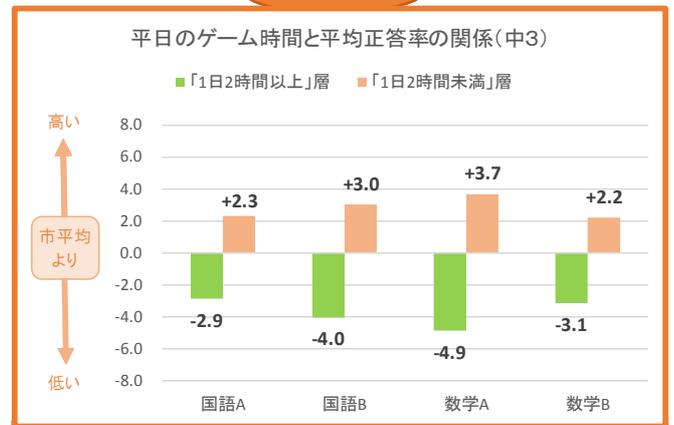
## ②中学校 3 年生

### テレビ



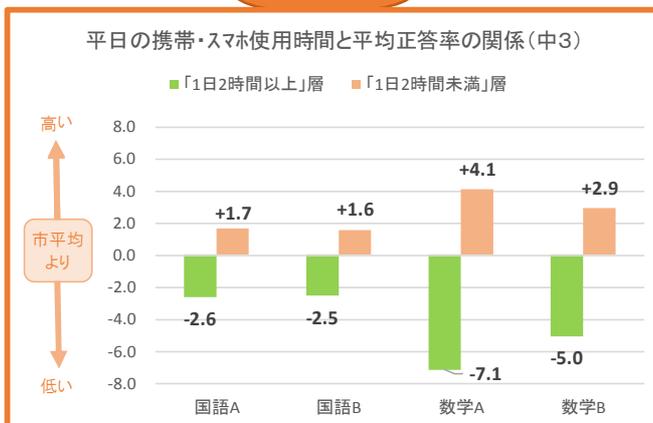
平日 1 日 2 時間以上見る層の平均正答率が全体的に市平均より 1~2 ポイント前後低く、逆に 2 時間未満しか観ない層では 1~2 ポイント前後高いが、他の項目と比較すると大差ないといえる。

### ゲーム



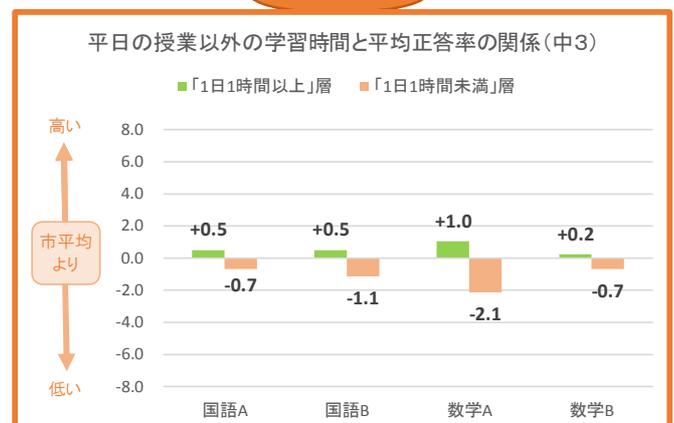
平日 1 日 2 時間以上する層の平均正答率が全体的に市平均より 3~5 ポイント前後低く、逆に 2 時間未満しかしない層では 2~4 ポイント前後高い。

### スマホ



平日 1 日 2 時間以上する層の平均正答率が数学を中心に市平均より 2~7 ポイント前後低く、逆に 2 時間未満しかしない層では数学を中心に 2~4 ポイント前後高い。

### 家庭学習



平日 1 日 1 時間以上する層の平均正答率は市平均より 0.5~1 ポイントほど高く、1 時間未満しかしない層では 0.5~2 ポイント前後低いが、他の項目と比較すると大差ないといえる。(※学習塾等での学習時間を含む。)

## 読書

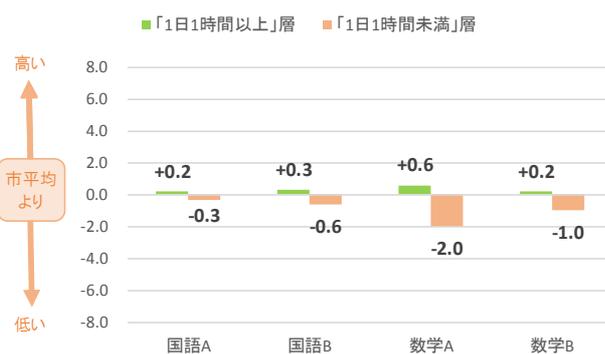
平日の読書時間と平均正答率の関係(中3)



平日 1 日 30 分以上する層の平均正答率は国語Bを中心に市平均より 2~4.5 ポイント前後高く、逆に 30 分未満しかしない層では 1~2 ポイント前後低い。

## 部活動

平日の部活動時間と平均正答率の関係(中3)



平日 1 日 1 時間以上する層の平均正答率は市平均より 0.2~0.6 ポイント前後高く、逆に 30 分未満しかしない層では 0.3~2 ポイント前後低いが、他項目と比較すると大差ないといえる。

### (4) 児童・生徒質問紙及び学校質問紙調査の主な回答結果データ

質問番号	質問事項	回答率に含まれる回答の範囲	学年	恵庭市回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
<b>ア. 生活習慣に関する質問</b>								
1	朝食を毎日食べていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	95.2%	95.4%	-0.2	94.1%	1.1
			中3	92.8%	93.2%	-0.4	92.3%	0.5
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	79.7%	79.8%	-0.1	79.7%	0.0
			中3	71.5%	75.6%	-4.1	74.9%	-3.4
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	90.2%	91.2%	-1.0	90.0%	0.2
			中3	92.0%	92.4%	-0.4	92.4%	-0.4
12	普段(月~金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビやビデオ・DVDを見たり, 聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間, テレビゲームをする時間は除く)	2時間以上している	小6	57.7%	55.7%	2.0	59.2%	-1.5
			中3	50.2%	49.1%	1.1	50.9%	-0.7
13	普段(月~金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか	2時間以上している	小6	32.8%	31.1%	1.7	38.0%	-5.2
			中3	42.0%	37.6%	4.4	43.1%	-1.1
14	普段(月~金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)	2時間以上している	小6	11.3%	12.0%	-0.7	15.8%	-4.5
			中3	36.6%	32.2%	4.4	37.7%	-1.1
20	学校の部活動に参加していますか	参加している	小6					
			中3	79.8%	87.6%	-7.8	77.0%	2.8
21	普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 部活動をしますか	1時間以上している	小6					
			中3	78.2%	84.0%	-5.8	76.2%	2.0
<b>イ. 自分やまわりへの意識に関する質問</b>								
5	難しいことでも, 失敗を恐れなくて挑戦していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	71.8%	77.4%	-5.6	75.1%	-3.3
			中3	69.1%	71.0%	-1.9	69.8%	-0.7
6	自分には, よいところがあると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	72.3%	77.9%	-5.6	75.0%	-2.7
			中3	64.2%	70.7%	-6.5	69.9%	-5.7
38	先生は, あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	88.7%	86.0%	2.7	85.5%	3.2
40			中3	77.5%	80.4%	-2.9	81.6%	-4.1
40	今住んでいる地域の行事に参加していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	57.5%	62.6%	-5.1	54.3%	3.2
42			中3	39.2%	42.1%	-2.9	34.4%	4.8
43	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	「参加したことがある」	小6	48.2%	35.4%	12.8	32.4%	15.8
45			中3	61.4%	49.7%	11.7	45.4%	16.0

①児童・生徒質問紙（続き）

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学年	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
<b>ウ. 家庭学習に関する質問</b>								
15	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	1時間以上している	小6	60.7%	64.4%	-3.7	57.1%	3.6
			中3	69.7%	69.6%	0.1	64.2%	5.5
16	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	1時間以上している	小6	64.4%	57.3%	7.1	56.6%	7.8
			中3	69.4%	69.4%	0.0	67.9%	1.5
17	学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか	している	小6	33.4%	45.8%	-12.4	36.7%	-3.3
			中3	51.4%	61.4%	-10.0	50.2%	1.2
29	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	69.8%	64.5%	5.3	65.4%	4.4
31			中3	47.4%	51.5%	-4.1	51.2%	-3.8
31	家で、学校の授業の予習をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	51.2%	41.0%	10.2	46.9%	4.3
33			中3	39.1%	31.7%	7.4	31.7%	7.4
32	家で、学校の授業の復習をしていますか	「している」「どちらかといえば、している」	小6	75.7%	53.8%	21.9	64.7%	11.0
34			中3	67.2%	50.5%	16.7	56.9%	10.3
<b>エ. 学校での学習に関する質問</b>								
33	学校に行くのは楽しいと思いますか	「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」	小6	81.9%	86.3%	-4.4	84.1%	-2.2
35			中3	71.4%	80.9%	-9.5	76.9%	-5.5
54	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	76.4%	69.8%	6.6	71.9%	4.5
56			中3	67.0%	64.3%	2.7	68.0%	-1.0
56	5年生までに／1、2年生のときに受けた授業の中では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	85.8%	84.7%	1.1	84.4%	1.4
58			中3	86.1%	84.4%	1.7	83.5%	2.6
62	5年生までに／1、2年生のときに受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	74.0%	76.2%	-2.2	72.4%	1.6
64			中3	66.0%	66.1%	-0.1	59.6%	6.4
69	国語の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	50.6%	60.5%	-9.9	60.9%	-10.3
71			中3	53.8%	60.5%	-6.7	62.6%	-8.8
71	国語の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	79.8%	82.2%	-2.4	82.2%	-2.4
73			中3	67.6%	74.9%	-7.3	76.9%	-9.3
74	国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	67.3%	68.0%	-0.7	66.1%	1.2
76			中3	57.2%	62.7%	-5.5	60.5%	-3.3
75	国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫していますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	64.2%	63.4%	0.8	62.7%	1.5
77			中3	48.3%	55.6%	-7.3	55.9%	-7.6
77	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか／最後まで解答を書こうと努力しましたか	全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した	小6	75.0%	77.2%	-2.2	75.2%	-0.2
79			中3	72.4%	72.3%	0.1	69.5%	2.9
78	算数／数学の勉強は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	63.6%	65.9%	-2.3	63.9%	-0.3
80			中3	56.7%	55.4%	1.3	53.2%	3.5
80	算数／数学の授業の内容はよく分かりますか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	79.5%	80.6%	-1.1	77.9%	1.6
82			中3	70.1%	69.4%	0.7	68.9%	1.2
88	今回の算数／数学の問題について、言葉や数・式を使って、わけや求め方など書く問題がありましたが、どのように解答しましたか／解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか	全ての問題で最後まで解答を書こうと努力した	小6	68.9%	69.9%	-1.0	66.7%	2.2
90			中3	52.1%	55.4%	-3.3	51.0%	1.1
<b>オ. 読書に関する質問</b>								
18	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	1日当たり30分以上している	小6	40.7%	36.5%	4.2	35.6%	5.1
			中3	29.8%	29.2%	0.6	31.4%	-1.6
		全くない	小6	21.7%	20.5%	1.2	23.3%	-1.6
			中3	34.2%	35.6%	-1.4	33.6%	0.6
19	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか	月1回以上行く	小6	51.8%	38.6%	13.2	34.7%	17.1
中3			33.1%	19.4%	13.7	16.7%	16.4	
72	読書は好きですか	「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」	小6	83.3%	74.3%	9.0	74.4%	8.9
74			中3	78.9%	69.9%	9.0	74.0%	4.9

②学校質問紙

質問 番号	質問事項	回答率に 含まれる 回答の範囲	学校	恵庭市 回答率	全国(公立)		全道(公立)	
					回答率	比較	回答率	比較
<b>A. 児童・生徒の自分やまわりへの意識に関する質問</b>								
51	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童／生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、児童／生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	97.4%	2.6	97.9%	2.1
			中	100.0%	95.5%	4.5	97.9%	2.1
<b>B. 児童・生徒の家庭学習に関する質問</b>								
94	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、保護者に対して児童／生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	97.0%	3.0	98.7%	1.3
92			中	100.0%	87.6%	12.4	94.4%	5.6
97	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、児童／生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	92.2%	7.8	96.1%	3.9
95			中	100.0%	88.3%	11.7	93.6%	6.4
<b>C. 児童・生徒の学校での学習に関する質問</b>								
23	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、放課後を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか	月に数回以上行った	小	50.0%	50.1%	-0.1	63.6%	-13.6
			中	100.0%	52.5%	47.5	70.1%	29.9
24	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、土曜日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)	年数回以上行った	小	25.0%	10.0%	15.0	7.7%	17.3
			中	20.0%	16.7%	3.3	12.0%	8.0
25	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、長期休業日を利用した補充的な学習サポートを実施しましたか(実施した日数の累計)	延5日以上行った	小	37.5%	27.5%	10.0	49.5%	-12.0
			中	100.0%	57.5%	42.5	75.1%	24.9
33	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	99.0%	1.0	98.7%	1.3
			中	100.0%	98.3%	1.7	97.0%	3.0
34	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	95.4%	4.6	95.4%	4.6
			中	100.0%	94.3%	5.7	95.0%	5.0
44	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	94.7%	5.3	95.9%	4.1
			中	100.0%	92.1%	7.9	95.5%	4.5
52	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン(タブレット端末を含む)、電子黒板、実物投影机、プロジェクター、インターネットなどを指す)を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか	「週1回以上行った」	小	37.5%	18.9%	18.6	28.1%	9.4
			中	20.0%	14.2%	5.8	17.5%	2.5
60	調査対象学年の児童／生徒に対して、算数／数学の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	年間授業のおおよそ1/4以上行った	小	75.0%	47.1%	27.9	54.1%	20.9
			中	80.0%	36.4%	43.6	52.2%	27.8
62	調査対象学年の児童／生徒に対して、算数／数学の授業において、前年度に、チームティーチングによる指導を行いましたか	年間授業のおおよそ1/4以上行った	小	50.0%	47.6%	2.4	58.9%	-8.9
			中	80.0%	46.9%	33.1	62.2%	17.8
67	調査対象学年の児童／生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	93.4%	6.6	94.3%	5.7
			中	100.0%	95.7%	4.3	96.6%	3.4
68	調査対象学年の児童／生徒に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	100.0%	88.9%	11.1	92.8%	7.2
			中	100.0%	90.6%	9.4	95.5%	4.5
72	調査対象学年の児童／生徒に対する算数／数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	75.2%	12.3	83.0%	4.5
			中	60.0%	70.9%	-10.9	80.3%	-20.3
<b>D. 児童・生徒の読書に関する質問</b>								
22	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度に、図書館資料を活用した授業を計画的に行いましたか	年数回以上行った	小	100.0%	98.2%	1.8	98.0%	2.0
			中	100.0%	90.9%	9.1	91.1%	8.9
82	調査対象学年の児童／生徒に対して、前年度までに、博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか	「よく行った」「どちらかといえば、行った」	小	87.5%	48.2%	39.3	61.3%	26.2
81			中	80.0%	23.1%	56.9	27.2%	52.8

## 4 総評

- ① 学力調査の結果、恵庭市の小学6年生の平均正答率は、全ての教科において全国平均とほぼ同様ですが、国語A、算数Aが全国平均をわずかに上回りました。また他の教科においても、全国平均との差を縮小しました。恵庭市の中学3年生の平均正答率も、全国平均とほぼ同様ですが、いずれの教科も全国平均をわずかに下回りました。なお、教科単位で全国平均と比べた結果を昨年度と比較すると、中学校国語A・B、数学Bがわずかに差を広げましたが、大きな変化はありませんでした。
- ② また、全国の下位4分の1層の小学6年生・中学3年生の割合と、同じ正答数の範囲に含まれる恵庭市の小学6年生・中学3年生の割合を比べたポイント差については、次のようになりました。

恵庭市の割合 と全国の割合 のポイント差	小学6年生				中学3年生			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
(前回) H28	2.5	4.8	6.8	4.7	1.0	3.2	0.8	-0.6
H29	<b>-1.5</b>	<b>1.9</b>	<b>-1.0</b>	<b>2.5</b>	<b>0.9</b>	<b>0.9</b>	<b>0.6</b>	<b>0.5</b>

※全国とのポイント差が小さくなる（最終的にはマイナスになる）ことが、学力の底上げの目安になります。昨年度に比べて、着実に学力の底上げがなされ、学力向上に向けた各校の取組の成果があらわれているといえます。

- ③ 恵庭市の小学校6年生・中学校3年生の生活習慣については、小・中学生のテレビやゲーム、中学生の携帯電話・スマートフォンに費やす時間が長い傾向にあり、寝る時間が不規則だったり遅くなったりする傾向がみられます。日々の家庭学習時間が短い傾向との関連があります。
- ④ 恵庭市PTA連合会では、毎月第3日曜日を「市P連の日」と定めて、「**ノーデジタル・メディア・チャレンジ**」に取り組んでいます。日時を限定して、「テレビを消す」「携帯電話、スマートフォン、ゲーム機を使わない」「インターネットの利用、メールのやりとりをしない」などのルールを、家族みんなで決めて実行しようという呼びかけを行っています。市教委としても、道教委が示している「(デジタルメディアを)全て合わせて2時間以内」を目安に、「**節度ある利用**」を呼びかけていきたいと考えています。
- ⑤ 「読書のまち」恵庭市の小学6年生で、「読書が好き」と答えた割合は83.3%で、全国より9ポイントほど高く、中学3年生で、「読書が好き」と答えた割合は78.9%で、全国より9ポイントほど高くなっています。今回の中学3年生が小学6年生だったとき(平成26年度)は77.6%であり、3年間で1.3ポイントの上昇が見られました。小学6年生、中学3年生ともに「平日30分以上読書する」「学校の図書館や地域の図書館に月1回以上行く」と答えた割合も全国より高く、際立っています。
- ⑥ 市教委では、「**家庭学習の手引き**」を配布しており、家庭学習の時間は、「学年×10分+10分(中学生は7年生、8年生、9年生と数える)」としています。小学校1年生であれば1日20分、中学校3年生は1日100分(1時間40分)の家庭学習の時間を確保できるよう、各校から示されている「家庭学習の手引き」も参考にして、各家庭やPTAの協力もいただきながら、生活習慣・学習習慣づくりに努めていきます。